

年号一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣
察之印

但シ右ノ書面ヲ差出サハ紙幣頭ハ奥書并ニ鈐印シテ之ヲ其銀行
へ下付スヘシ銀行ハ此奥書ヲ得タル上ニテ公債証書ヲ預ケ銀行
紙幣ヲ請取ルノ手續ニ取掛ルヘシ

第十五條 國立銀行ハ條例第四十二條ニ準據シ其資本金ヲ減少スル
キハ諸般ノ手續ヲ經テ後チ紙幣頭へ其資本金減少証書ヲ差出スヘ
シ其文例ハ左ノ如シ

但シ減少ノ手續ハ其銀行紙幣ヲ紙幣寮ニ返上シテ燒捨ノ手續ヲ
ナシ其同額ノ公債証書ヲ紙幣頭ノ手ヲ經テ出納頭ヨリ取戻スヘ
シ而シ其準備金モ亦之ニ準シテ減少スヘシ

資本金減少証書 (府縣)管下第一大區一小区(町村)一國立銀行

減少株數並金額	殘株數並金額	住	所	姓	名
一株 一圓	一株 一圓	一(府縣)管下第一 大區一小区(町 村)一番地	一(町)	一(府縣)華士族平 民	何某
合 一 株 一 圓					

右ハ社中格段決議ヲ經テ資本金減少仕候高並ニ殘現額共書面ノ
通り相違無之候也

年号一年一月一日

一國立銀行支配人

姓名印

○第八章銀行○第一節國立銀行

銀行
之印

同 頭取

姓名 印

紙幣頭何某殿

右之通相違無之候也

地方官

地方長官姓名印

廳之印

紙幣察察印

右一国立銀行資本減少証書差出スニ付年号一一年一月一日
余ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ其事ヲ承認シタル証據トシテ茲ニ記名
調印シ併セテ本察ノ官印ヲ鈐スルモノ也

年号一一年一月一日

紙幣頭姓名印

紙幣察
之印

右増減證書ハ各二通宛ヲ紙幣察ニ出シ其一通ハ前ノ文例ノ如ク
紙幣頭與書鈐印シテ其銀行ハ下付スヘシ

○公債證書預方ノ事

第十六條 国立銀行ニテ其業ヲ始ムヘキ前ニ四朱以上利付ノ公債證
書ヲ買入レ之ヲ出納頭ニ預クヘシ右ハ其銀行ヨリ發行スヘキ紙幣
ノ抵當ナレハ其銀行ノ資本金額十分八ノ割合ニシテ即チ銀行ニ受
取ルヘキ銀行紙幣ト同額タルヘシ(條例第十八條第二十二條ヲ參考
スヘシ)

第十七條 出納頭ハ右公債證書ヲ領受シ直チニ假請取書ヲ其銀行ヘ
下付シ退テ紙幣頭連名ノ本請取證書ヲ製シ其假請取證書ト引換フ
ヘシ

○銀行紙幣注文ノ事

第十八條 国立銀行ハ右公債證書ノ請取書ヲ領受セハ其銀行ヨリ發

○第八章銀行○第一節国立銀行

行スヘキ銀行紙幣ノ受取方ヲ頭取支配人ヨリ注文書ヲ以テ紙幣頭
 へ申立ツヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ條例第四十六條ニ準據シテ此ノ注文書ヲ差出スヘシ

銀行紙幣注文書

(府縣)管下第一大区一小区(町村)ニ創立シタル一国立銀行ニ於
 テ国立銀行條例ニ從ヒ一萬一十圓ノ銀行紙幣ヲ發行致シ度ニ付左
 ニ掲載スル種類員額ノ紙幣製造之上御渡被下度候也

銀行紙幣種類	枚	數	金額
圓	1	1	圓
圓	1	1	圓
圓	1	1	圓
合計	1	1	圓

右銀行紙幣ノ抵當トシテ出納頭ニ預ケタル公債証書ノ現額ハ左
 ノ如シ

公債証書ノ種類	利	息	實價割合	金額
1公債証書1圓	1	朱	百圓ニ付	1圓
1圓1枚	1	朱	百圓ニ付	1圓
合計	1	1	1	1圓

右之通謹テ奉願候也

年号一一年一月一日

一国立銀行支配人

銀行
之印

同頭取

姓名印
姓名印

第八章銀行第一節国立銀行

紙幣頭何某殿

第十九條 右銀行紙幣ノ注文書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ條例第
四十七條ニ準據シ銀行紙幣ヲ製造シテ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而シ
テ其銀行ハ之ヲ受取リテ後ヲ受取証書ヲ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

銀行紙幣請取証書

銀行紙幣種類	枚	數	金額
圓	1	枚	1圓
圓	1	枚	1圓
合計	1	枚	1圓

右ハ當リ国立銀行發行紙幣トシテ正ニ請取候也
年號 1年 1月 1日
国立銀行支配人

銀行
之印

同 頭取

姓名印
姓名印

紙幣頭何某殿

○銀行紙幣發行ノ事

第二十條 国立銀行ニテ右銀行紙幣ヲ領受スルニ於テ頭取支配人ノ兩
人一々其紙幣ノ表面ニ其役名及ヒ姓名ヲ記入シ其役印ヲ押捺シテ後
チ之ヲ世上ニ發行スヘシ若シ其記入押捺ノ際損傷等ノモノアルニ於テ
ハ更ニ其趣ヲ紙幣頭ニ申立テ其損傷紙幣ヲ納メテ引替ヲ乞フヘシ
但シ頭取支配人ハ其印影ヲ紙幣頭ヘ差出シ其紙幣押印ノ用肉ヲ
紙幣察ヨリ受取ルヘシ

○損壞銀行紙幣引換方ノ事

○第八章銀行○第一節国立銀行

ヲ以テ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ

第二十二條 紙幣寮ニ於テ右銀行紙幣ヲ燒捨ノ節ハ其趣ヲ銀行へ通達アル可キニ付銀行ハ立合人ヲ紙幣寮ニ差出シ燒捨所ニ於テ立合實驗ノ上燒捨證書ニ記名調印スヘシ尤モ此燒捨證書ハ二通ニ認メ一通ハ紙幣寮ニ納メ一通ハ之ヲ其銀行へ下付スヘシ右ノ立合ニハ大藏省ニ關係ナキ人ヲ撰ミ銀行ヨリ差出スヘシ

但シ遠隔ノ地方ニ創立シタル銀行ハ東京ニ於テ豫テ燒捨ノ立合人ヲ頼置キ其姓名住所ハ之ヲ紙幣寮ニ届ケ置クヘシ

第二十三條 國立銀行ヨリ引換ノ爲メニ紙幣寮ニ差出スヘキ敗裂或ハ汚染ノ銀行紙幣ハ五百圓以上ノ高タルヘシ其銀行紙幣ハ消印ヲ押シ種類ヲ分チ其封套ニ其金額ヲ記載シ前第二十一條ニ掲クル所ノ書面ヲ添ヘ之ヲ紙幣寮へ差出スヘシ尤モ此紙幣引替ニ付往復運送ノ諸費用ハ銀行之ヲ辨スヘシ

但シ數片ニ細裂シタル銀行紙幣アラハ銀行ノ役員之ヲ連接シテ差出スヘシ

第二十四條 (明治十二年一月二十日第三号布告ヲ以テ左之通り改正ス) 敗裂銀行紙幣ヲ其銀行ニ持參シ引換ヲ請フ者アルキハ其役員之ヲ精密ニ検査シ金額ハ勿論店名(又ハ役員姓名)明瞭ニシテ番號記号全存スル者及番号記号一モ存セサル者コテモ缺失セシ部分ニ金額及店名(又ハ役員姓名)番号記号(各其一)ノ連續シテ俱ニ存スヘキ餘地ナキ者ハ全額ヲ以テ交換スヘシ又番号記号各其一ヲ存シ且金額及店名(又ハ役員姓名)明瞭ナルモ缺失セシ部分ニ猶金額及店名(又ハ役員姓名)番号記号(各其一)ノ連續シテ俱ニ存スヘキ餘地アル者ハ總テ半額ヲ以テ交換スヘシ若又細裂シテ其紙片ノ全備セサル者ト雖田之ヲ集合シテ彩紋字体等ノ連續スル者ハ前文ノ例ニ照準シ全額或ハ半額ヲ以テ交換スヘシ

但シ汚染ノ紙幣ニシテ金額及其店名等ヲ認メ得ヘキ者ハ金額ヲ以テ交換スヘシ

○株式ノ事

第二十五條 國立銀行ノ株主タル者ハ其所持スル所ノ株金總入金濟ミトナリタルキハ社印ヲ鈐シタル株式券狀ヲ一株ニ付一通宛領受スルノ權利アルヘシ其株式券狀ノ雛形ハ左ノ如シ

第一番

大日本一地方一國立銀行株式券狀

一縣管下第一大區一小区一町一番地何某殿儀大日本帝國政府ニ於テ制定施行シタル國立銀行條例ヲ遵奉シ且ツ當銀行ノ定款ヲ確守シ年号一一年一月一日ヨリ我一一國立銀行株式ノ内一(百五十)圓即チ一株ノ持主タルト相違無キ証據トシテ此株式券狀ニ當銀行ノ印章ヲ押捺シ之ヲ附與スルモノ也

此株式券狀ヲ賣却讓與セント欲セハ當銀行ヘ持參スヘシ銀行ニ於テ至當ノ検査ヲ遂ケ此券狀裏面ノ枠内ヘ頭取支配人記名調印ノ上之ヲ差戻スヘシ

銀行之印

一國立銀行頭取 姓名印
同 支配人 姓名印

裏	年号月日	賣渡人記名調印	買受人記名調印	頭取記名調印	支配人記名調印

面		

第二十六條 若シ右株式券狀磨滅敗裂等ノコアルハ其趣ヲ書面ニ認メ之カ書替ヲ乞フヘシ若シ又燒亡紛失スルコアレハ其事實ヲ明瞭ニ認メ二人以上ノ証人ヲ立テ各之ニ記名調印シ更ニ新株式券狀ノ受取方ヲ乞フヘシ

但シ株式券狀ヲ書替フル等ノキハ銀行ヨリ差圖スル所ノ手数料ヲ拂フヘシ

○株式賣買ノ事

第二十七條 株式ヲ賣買スルニハ之カ證書ヲ製シ賣渡人買受人ノ双方相當ナル証人ノ眼前ニ於テ之ニ連印シ株式券狀ト共ニ之ヲ銀行ヘ差出スヘシ而シテ頭取支配人ハ兼テ備置キタル株式賣買ノ簿冊ヘ

其顛末ヲ登記シ其株式券狀ノ裏面ヘ記名調印シ併セテ右證書株式券狀ノ間ニ割印ヲ押捺シ再ヒ其株式券狀ヲ其人々ヘ渡ス可シ但シ右ノ手數濟ム迄ハ賣渡人ヲ以テ右株式ノ持主ト定ムヘシ

第二十八條 右株式賣買證書ノ文例ハ左ノ如シ

株式賣買證書

一 國立銀行株式ノ内第一番(或ハ第一番ヨリ一番迄)一株式何某(茲ニ賣渡人ノ姓名ヲ掲ク)所持ノ分代金一圓ニテ今般何某(茲ニ買受人ノ姓名ヲ掲ク)ヘ賣渡シ書面ノ金額受取渡シ相濟候處實正也然ル上ハ向後買受人ハ勿論其相續人後見人ニ於テモ之ヲ所持シ何某(賣渡人ノ姓名)所持中ト同様ノ規約ヲ遵守スヘシ仍テ證書如件

年号一 年一 月一 日

一(府縣)管下第一大區一小区一(町村)一番地
賣渡人 姓名 印
一(府縣)管下第一大區一小区一(町村)一番地

買受人 姓名 印

(府縣)管下第一大区—小区—(町村)—番地

証人 姓名 印

——國立銀行

御中

第二十九條 右株式賣買ノ簿冊ハ每半季定式總會以前日數十五日ノ間ハ之ヲ閉鎖シ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告シテ一切其事ノ取扱ニ從事セサルヲ得ヘシ

○株式讓與ノ事

第三十條 銀行株主ノ内死去スル者アリテ其相續人若クハ後見人ノ右株式ヲ讓受クヘキモノハ銀行ノ要求セル然ルヘキ証據ヲ差出シタル上ニテ其銀行ノ株主トシテ株主牒ノ記載ニ入ルヲ得ヘシ
○株式没入ノ事

第三十一條 銀行ノ株主等若シ株金ノ月賦入金ヲ怠ルキハ頭取取締役等ハ條例第三十二條第三十三條ニ準據シテ之カ處分ヲ爲スヘシ

○總會ノ事

第三十二條 第一次ノ總會ハ銀行其開業免狀ヲ受ケシヨリ以後三月以内ニ於テ其頭取取締役ノ取極メタル時日場所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第三十三條 第二次以後ノ總會ハ毎年第一月第七月(何レモ然ルヘキ日ニ於テ)頭取取締役ノ取極ムル所ノ時日場所ニ於テ之ヲ執行スヘシ
第三十四條 凡ソ總會ハ定式臨時ノ二様ニ分チ前條ニ掲載シタル總會ヲ定式總會ト稱シ此總會ニ於テハ總定勘ニ於ケル正算指示ノ事並ニ利益金分配ノ事及ヒ頭取支配人ヨリ差出ス所ノ平常處務ノ顛末ヲ記載シタル書類ヲ検査審按スル等ノ事ヲ施行スヘシ其他ノ總會ヲ臨時總會ト稱シ臨時ニ起ル所ノ事件ヲ評議處分スヘシ

○第八章銀行○第一節國立銀行

第三十五條 凡ソ總會ヲ執行ハントスルニ當テハ其取極メタル時日場所ヲ報告書ニ記載シ若シ(格段決議ニ付スヘキ事件アレハ其大旨ヲモ加載シ)少クトモ日數七日以前ニ於テ之ヲ總株主ヘ通知スヘシ而シテ右ノ如ク手數ヲ爲セシ上ハ假令株主ノ内右報告書ヲ受承セサルモノアルトモ此總會ノ手順ニ於テハ既ニ盡セシモノト爲スヘシ但シ銀行ヨリ株主ヘ報告スルノ書類ハ之ヲ直達スルカ又ハ郵便其他ノ手續ヲ以テスルキ都テ銀行ノ便宜ニ任スヘシ

第三十六條 銀行ノ頭取取締役ニ於テ適當ナリト思考スルカ又ハ株主ノ人員十名ニ下ラスノ其所持ノ株數總株ノ五分一以上ニ及フ者ヨリ之ヲ請求スルニ於テハ何時ニテモ臨時總會ヲ執行フコト得ヘシ
第三十七條 右株主等ノ請求ハ之ヲ書面ニ認メ此總會ヲ請求スル所以ノ目的事件ヲ詳載シ郵便其他ノ手續ヲ以テ之ヲ頭取取締役ヘ送達スヘシ

第三十八條 頭取取締役ハ右請求書ヲ領受セハ直チニ其總會招集ノ事ニ取掛ルヘシ若シ取締役右請求ヲ承知セシ日ヨリ日數七日ノ内ニ召集ノ手續ヲナサ、ルキハ右請求人等自身ニ之ヲ召集スルカ又ハ其他ノ株主等ト相謀テ之ヲ召集スルヲ得ヘシ

第三十九條 凡ソ總會ニ於テ事務ヲ評議處分スルニ當テハ必ス株主ノ總員(本人又ハ代人共)十分ノ五以上之ニ出席スルニ非レハ(利益金分配ノ報告一件ヲ除クノ外)何事ヲモ評議處分スヘカラス

第四十條 凡ソ總會ノ議長ハ頭取(又ハ副頭取)之ニ任スヘシ
第四十一條 右議長若シ會集スヘキ刻限ヨリ十五分時間ヲ過キ猶ホ臨席セサリシキハ出席株主等ノ内ヨリ一人ヲ公撰シ以テ議長ト爲スコトヲ得ヘシ

第四十二條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルコトハ(可否又ハ同意不同意ノ發言若クハ投票ニテモ)其說ノ多數ニ因リ以テ之ヲ決定シ其次第

ヲ簿冊ニ登録シ併セテ其決議濟ミノ旨ヲ加載シ其節ノ議長之ニ檢印シ以テ後日參觀証據ニ備ヘ置クベシ

第四十三條 凡ソ總會ニ於テ事ヲ議定スルニ若シ發言投票ノ數相半ハスルキハ議長ノ助説若クハ決票ヲ以テ之ヲ裁決スヘシ

○株主發言投票ノ事

第四十四條 銀行ノ株主等ハ各其所持セル株數十箇迄ハ一株毎トニ一個宛ノ發言投票ヲ爲スヘシ又十一株以上百株迄ハ五株毎トニ一個宛ヲ増加シ百一株以上ハ十株毎トニ一個宛ヲ増加スルトト定ムヘシ

第四十五條 凡ソ銀行ノ役員タル者ハ他人ノ代人トナリテ發言投票スルノ權利ヲ有スルヲ得ヌ又株式券狀ヲ借財ノ爲メ其銀行ヘ質入シタルモノハ總會ニ於テ自身又ハ他人ノ名代ニテモ一切發言投票ノ權利勿カルヘシ

第四十六條 發言投票ハ本人又ハ本人幼弱又ハ狂癲其他ノ事故アル

ニ於テハ代人何レモ勝手タルヘシ尤モ代人ハ其銀行ノ株主中ノ者ニ限り之ニ委任狀ヲ與ヘ以テ之ヲ差出スヘシ若シ其代人ヲ差出サスノ決議ノ後如何ナル異議アルモ一切之ヲ申立ツルヲ得サルヘシ
第四十七條 右代人委任狀ノ雛形ハ左ノ如シ

委任狀ノ事

年号一一年一月一日 國立銀行ノ定式又ハ臨時總會及ヒ其總會ニ於テ何某ヲ拙者代人トシテ發言投票爲致候仍テ委任狀如件
年号一一年一月一日 國立銀行株主
姓名 印

國立銀行

御中

○諸役員ノ事

第四十八條 國立銀行ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

○第八章銀行○第一節國立銀行

取締役 何人

内

頭取 何人 副頭取 何人(若シ之アラハ)

支配人 何人 書記方 何人

出納方 何人 計算方 何人

簿記方 何人

但シ右ノ如ク制定スト雖ヒ銀行ノ便宜ニ依リ之ヲ廢置兼攝シ若クハ其他ノ役員ヲ設置スルヲ得ヘシ尤取締役ノ人員ハ(頭取副頭取ヲ加ヘ)都合五名ヨリ減少スヘカラス故ニ若シ右ノ定員ヨリ欠クルモハ株主一同ノ協議ヲ以テ速カニ其欠ヲ補フヘシ

第四十九條 國立銀行ノ頭取取締役タル者ハ其銀行營業ノ全体ニ注意シ實際ノ事務ヲ處分シ總テ其責メニ任スヘシ然レモ新ニ一事ヲ興シ又ハ之ヲ更正シ又ハ之ヲ廢止シ及ヒ定例ナキ出納其他ノ事ヲ處

スル等ノ如キハ株主總會ノ決議ヲ經ルニ非レハ之ヲ施行スルヲ得ス
第五十條 取締役ハ同僚中ヨリ(入札公撰ヲ以テ)其人ヲ撰舉シテ頭取(又ハ副頭取)ト爲スヘシ此頭取ハ銀行ノ事務ヲ總判シ及ヒ會議ノ席ニ於テ議長ノ職ニ任スヘシ

但シ副頭取ハ頭取欠席スルモ其事務ヲ代理スル迄ニシテ平日ハ取締役ト同様ノ職任タルヘシ

第五十一條 左ニ掲ケシ人々ハ取締役タルヲ得ス

第一 銀行ニ於テ三十株又ハ六十株以上ヲ所持セサル株主
但シ資本金拾萬圓以上ニシテ一株百圓ノ銀行ナレハ三十株一株五十圓ノ銀行ナレハ六十株又資本金拾萬圓未滿五萬圓以上ニシテ一株五十圓ノ銀行ナレハ三十株一株二十五圓ノ銀行ナレハ六十株ノ割合タルヘシ

第二 一旦破産ニ遇ヒシ株主

第五十二條 取締役ノ人員三分二ハ本店設立ノ地方ニ於テ少クトモ一ケ年間住居セシモノタルヘシ

第五十三條 各取締役ハ其所持ノ株式券狀三十箇又ハ六十箇(前第五十一條中第一項ニ掲クル所ノ割合)ヲ其銀行ニ預ケ其代リトシテ禁授受ノ三字ヲ附シタル保護預リ証書ヲ請取リ置キ右取締役ノ奉職中ハ決シテ之ヲ引出スコトヲ得ス

第五十四條 頭取取締役タリトモ株主一同ノ協議ニテ取極メタル給料旅費及ヒ賞與金手當並ニ株主ノ場ニテ受取ルヘキ分配利益金ノ外自餘ノ所得ヲ受クルコトヲ得サルヘシ

第五十五條 取締役ノ撰舉ハ定式總會ニ於テ株主一同ノ投票ヲ以テ之ヲ撰舉スヘシ尤モ不時ニ欠員アルトハ臨時總會ニ於テ之ヲ撰舉スヘシ
第五十六條 右ノ總會ニ於テ撰舉セラル、所ノ取締役ハ直ニ誓詞ニ通テ認メ其地方長官ノ面前ニ於テ調印シ本紙ハ紙幣頭ニ差出シ

寫一通ハ其銀行ニ藏メ置クヘシ其文例ハ左ノ如シ

頭取ノ誓詞

「(府縣)管下第一大區一小区」(町村)ニ於テ創立シタル一国立銀行ノ取締役何某謹テ左ノ條々ヲ誓フ

私儀ハ「(府縣)ノ(華士族平民)ニシテ「(府縣)管下第一大區一小区」(町村)ニ居住イマスニ相違無之事

當銀行ノ事務ヲ處分スルニ付私關係ノ職掌ハ忠實ニ取扱ヘキ事
私在職中國立銀行條例成規ノ旨趣ハ一ケ條ヲリドモ決シテ犯間敷又他人ヲシテ犯サセ間敷事

国立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ私儀當銀行資本金中ノ(三十、六十)株ハ自力ヲ以テ所持スルニ相違無之事

右ノ株式券狀ハ国立銀行條例成規ノ規定ニ從ヒ當銀行ニ預ケ置キ

在職中ハ決シテ引出ス間敷候事

一(府縣)管下第一大区一小区(町村)一国立銀行(頭取取締役)

姓名印

年号一年一月一日書面ノ者余カ面前ニ於テ調印シ誓約致シ候事相違無之候也

地方官

地方長官姓名印

廳之印

但シ此誓詞ハ取締役等各通タルヘシ

第五十七條 銀行ノ頭取支配人ノ撰舉サレタル時ハ新任ノ印影ヲ添

ヘ上任ノ報告ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其文例ハ左ノ如シ

但シ最初撰舉ノキ差出ス所ノ上任報告ニハ文例中元役ヲ除クハ

勿論タルヘシ

上任報告

當一月一日何某儀ハ當国立銀行ノ頭取ニ選ハレ何某儀ハ支配人ニ命セラレ其印鑑ハ別紙ノ通ニ候也

年号一年一月一日 一国立銀行

元支配人 姓名印

元頭取 姓名印

新支配人 姓名印

新頭取 姓名印

銀行之印

紙幣頭何某殿

用紙美濃紙堅七寸幅二寸

年号一年一月一日何某代リ
府縣華士族平民
何役撰舉
姓名
印鑑 小印
姓名
一年一月

銀行之印

○八章銀行○第一節国立銀行

第五十八條 頭取取締役ハ其職務ヲ舉クル爲メ少クモ毎月三度以上同僚中ノ集會ヲ爲シ以テ其事務ノ評議處分スルヲ得ヘシ而シテ此集會ノ休裁方法ハ總會ノ手續ニ準據シ銀行ニ於テ然ルヘキ規程ヲ立テ以テ之ニ從事スヘシ

第五十九條 頭取取締役在職ノ年限ハ一期必ス滿一箇年タルヘシ而シテ退役放免等ノ外ハ奉職ノ年限中必ス勤任スルモノト爲スヘシ但シ頭取取締役ノ在職年限ハ本條掲ケル所ノ如シト雖モ其滿期ニ至リ更ニ入札公撰ヲ以テ重年上任スルヲ得ヘシ尤モ重年上任シタルトハ第五十六條五十七條ニ準據シ更ニ誓詞並ニ上任報告ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第六十條 支配人以下ノ撰舉並ニ給料等ハ頭取取締役ノ意見ニ因リ之ヲ取極ムヘシ尤モ支配人ハ銀行ノ事業ヲ處分スル重任ナレハ株

主ニ非ル者ニテモ須ラシ熟練ノ人ヲ撰フヘシ且其他ノ役員モ亦他人ヲ雇入ルハ其銀行ノ便宜ニ任スヘシ

○社中申合規則ノ事

第六十一條 頭取取締役ハ其同僚ノ衆議ヲ盡シ利益金分配ノ手續諸役員ノ權限分課給料旅費ノ定則及ヒ其褒貶進退其他一切緊要ナル事件ヲ適宜掲載シタル社中申合規則ヲ議定スヘシ尤モ右申合規則ハ條例成規ノ旨趣ニ背戾セサルハ勿論アリト雖モ其社中ノ申合ニ止ルヲ以テ更ニ紙幣頭ヘ差出スニ及ハサルヘシ

○利益金分配ノ事

第六十二條 頭取取締役ハ株主ノ總會ヲ經テ銀行ノ利益金ヲ株主銘々所持ノ株高ニ應シテ割渡スヘキ旨ヲ總株主ヘ報知スヘシ

○諸計算ノ事

第六十三條 銀行ノ出納其他一切ノ計算ニ關スル諸簿冊ハ紙幣頭差

圖スル所ノ書式ニ從ヒ明細嚴肅ニ記入スヘシ
第六十四條 頭取取締役ハ每半季考課狀及ヒ出納ノ明細書ヲ製シ總會ニ於テ之ヲ株主一同ニ明示スヘシ

○諸願伺届等差出方ノ事

第六十五條 銀行ノ諸願伺届報告其他凡ソ諸官廳ニ差出スヘキ一切ノ文書ハ必ラス本紙一通正寫一通都合二通宛タルヘシ

○國立銀行報告ノ事

第六十六條 國立銀行ハ銀行條例第七十七條ニ準據シ紙幣頭差圖スル處ノ書式ニ從ヒ半季及ヒ毎月其銀行營業ノ實際報告ヲ製シ之ヲ紙幣頭ニ差出スヘシ其報告ノ種類ハ左ノ如シ

但シ右報告用紙ハ相當ノ代價ヲ以テ紙幣頭ヨリ拂下シヘシ

第一 銀行半季考課狀

第二 銀行半季實際報告

第三 銀行半季利益金割合報告

第四 銀行半季平均高報告

第五 銀行年中平均高報告

第六 株主姓名表

右六種ノ報告ハ第一月十日第七月十日マテニ紙幣頭ニ差出スヘシ尤モ遠隔ノ地方ニ本店又ハ支店ヲ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ

第七 銀行本店毎月實際報告

第八 銀行支店毎月實際報告

右二種ノ報告ハ毎月五日マテニ紙幣頭ニ差出スヘシ尤モ遠隔ノ地方ニ設置シタル銀行ハ其郵便日數ヲ宥恕スヘシ但シ支店毎月報告ハ其本店ヲ經ルニ及ハス其支店ヨリ直チニ紙幣頭ニ差出スヘシ右ノ外紙幣頭ノ考按ヨリ臨時實際ノ報告ヲ差出サシムルコトアルヘシ

シ尤モ右臨時報告ノ差出方ハ其時々紙幣頭ヨリ命スヘシトモ
右之通相定候事

明治九年八月一日

太政官

▲明治十二年十月三日大藏省達

振出手形ノ儀ハ自今左ノ通心得發行可致此旨相達候事

第一 此手形ハ一枚ノ金額百圓以上タルヘシ

第二 此手形ハ振出シタル年月日及預ケ主ノ姓名ヲ記入シ授受ノ際

ハ必ス裏書ヲ要スヘシ

第三 此手形ニ對シテハ利息ヲ付スヘカラス

第四 此手形ハ發行店ノ外其仕拂ヲナスヘカラス

但賣買割引ハ此限ニアラス

第五 此手形ハ銀行紙幣並ニ預金ノ準備ト爲ヌテ得サルハ勿論金銀

有高ニ算入スヘカラス

以上

○第二節 日本銀行條例

○明治十五年六月廿七日第三十二号布告

日本銀行條例

第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔

スベキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナ

ル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」

ヲ締約スルコトヲ得但シ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレ

レスボンデンス」ヲ締約スルキハ其事由ヲ大藏卿ニ具狀シテ其許可ヲ

受クヘシ又大藏卿ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスルキハ銀行ニ

命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三年トス但株主總會

○第八章銀行○第二節日本銀行條例

ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルヲ得

第四條 日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五万株ニ分チ一株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルヲ得

第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスル者ハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ二百萬圓ノ入金アルキハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但シ資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタルキハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ルマテノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スルキハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クハ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬并諸証券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債証券政府發行ノ手形其他政府ノ保証ニ係ル各種ノ証券
ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但シ其金額及
ヒ利子ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ大藏
卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外ニ左ニ掲グル件
件ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係
スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動
産ノ所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ因リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事

セシムヘシ

第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但シ此銀行
券ヲ發行セシムルキハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スルモノトス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及ヒ切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債証券ヲ買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但
シ此ノ場合ニ於テハ大藏卿ノ許可ヲ受クベキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル
モノトス此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任ト
ス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ撰舉シ大藏卿ノ命スル者トス但創
立第一回ハ五ケ年ノ任期ヲ以テ大藏卿之ヲ特命スヘシ監事ハ株主
總會ニ於テ之ヲ撰舉シ理事監事ノ任期ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

○第八章銀行○第二節日本銀行條例

第二十條 理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サズ
第二十一條 大藏卿ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務
ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及ヒ約定店等ノ營業上百般ノ
景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之レヲ大藏卿ヘ報告スヘシ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ
許可ヲ受クヘシ但シ定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スルキハ
株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款
ニ背戻スルコトハ勿論政府ニ於テ不利ト認ムル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 此條例ヲ改正増削スルキハ其施行ノ日ヨリ三ヶ月以前
ニ之ヲ布告スヘシ

(增)明治十六年五月三十日號外達

國立銀行條例追加第一百十二條ニ據リ日本銀行ニ於テ各國立銀行紙幣
ヲ消却スルニ付テハ別冊ノ通合同消却方相定候條右ニ準據シ不都合
無之様處分可致此旨相達候事

銀行紙幣合同消却方法

第一條 日本銀行ニ於テ各國立銀行ノ紙幣ヲ消却スルハ毎季紙幣消
却元資金ヨリ生スル利子ノ金額ヲ準據トシ總体ノ發行高ヲ合同シ
テ便宜之レヲ消却處分スルモノトス故ニ其年ノ都合ニヨリテハ一
銀行ノ計算ニ於テ或ハ紙幣發行高ト其實際ノ消却高トニ過不足ヲ
生スル事アルヘシト云ヒ終期ニ至リテ悉皆其消却ヲ完了スヘキモ
ノトス

第二條 日本銀行ハ毎季紙幣消却元資金ノ利子ヲ管轄廳ヨリ受取ル
キハ其金額ヲ各銀行紙幣發行高ニ對比シテ一行毎ニ其季ノ消却割
付高ヲ算定シ其一覽表ヲ製シテ(六月十五日十二月十五日)迄ニ之レ

ヲ大藏省ニ上呈シ各國立銀行ハ右期限迄ニ其計算書ヲ發付シテ
當季ニ消却スヘキ銀行紙幣ノ割付高ヲ通知スヘシ

第三條 日本銀行ハ前第二條ニ掲クル利子金ヲ以テ消却シタル各銀
行紙幣ノ合高ヲ取纏メ其發行店毎ニ之レヲ區別シ其種類員額及記
號番號ノ内譯書ヲ添ヘテ之レヲ大藏省ニ納付シ大藏省ヨリ請取証
書ヲ領收スヘシ

第四條 右ノ受取証書ヲ領受セハ日本銀行ハ各銀行紙幣消却証書(各
行ノ紙幣實際ノ消却多寡ニ拘ハラヌ第二條ノ割付高ニ從フヘシ)及
實際消却シタル紙幣ノ種類員額記號番號ノ内譯書ヲ各國立銀行ヘ
送付スヘシ

第五條 各國立銀行ハ右ノ消却証書ヲ得タルキハ紙幣消却ノ旨ヲ大
藏省ニ届出テ紙幣下付高ノ内ヨリ該金額ヲ扣除シ元高消除ノ書面
ヲ作り之レヲ日本銀行ヘ送付スヘシ

第六條 各國立銀行ヨリ紙幣消却ノ旨ヲ大藏省ニ届出タルキハ大藏
省ハ各銀行紙幣實際消却高ノ多寡ニ拘ハラヌ第二條ノ割付消却高
ニ從ヒ紙幣抵當公債証書ヲ直チニ各國立銀行ニ下付スルモノトス

第七條 各國立銀行中營業滿期ニ至リ發行紙幣尙殘存スルモノハ日
本銀行ニ於テ命令書第三條ニ掲クル公債証書ヲ賣拂ヒ其代金ヲ以
テ之レヲ消却シ尙殘額アレハ命令書第二條ニ掲クル公債証書ヲ賣
拂ヒ其代金ヲ日本銀行ニ預リ置キ以テ右殘存紙幣消却ノ資ニ充ツ
ルモノトス

第八條 各國立銀行中紙幣消却未タ完了セサル場合ニ於テ鎖店スル
モノアルキハ日本銀行ハ其銀行ヨリ預リタル紙幣消却元資ヲ還付
シ而シテ其銀行ニ係ル實際消却高ト割付消却高トヲ比較シ割付消
却高ノ方多額ナルキハ大藏省ニ於テ割付消却高ノ殘額ヲ引換消却
シ實際消却高ト割付消却高トノ差額ハ日本銀行ヨリ他ノ消却元資

ヲ上納セシメ大藏省ニ於テ消却處分スルモノトス若又之ニ反シ實際消却高ノ方多額ナルキハ大藏省ニ於テ實際消却高ノ殘額ヲ引換消却シ實際消却高ト割付消却高トノ差額ハ紙幣抵當公債證書ヲ賣却シ其代金ヲ日本銀行ヘ下付シ他ノ消却元資ニ充タシムヘシ

○第三節 爲替手形約束手形條例

○明治十五年十二月十一日第五十七号布告

爲替手形約束手形條例

第一章 爲替手形

第一節 爲替手形ノ性質及ヒ法式

第一條 爲替手形ハ振出人ヨリ支拂人ニ當テ記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ拂渡サシムル證券ヲ謂フ

第二條 爲替手形ニハ左ノ件々ヲ記載シ振出人記名調印ス可シ

一 金額

二 振出ノ年月日及ヒ場所

三 支拂ノ期限及ヒ場所

四 支拂人ノ氏名

五 受取人ノ氏名

六 受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ支拂フ可キ旨

第三條 爲替手形ハ一ノ爲替ニ付キ同文ノ手形二通又ハ三通ヲ振出スヲ得此場合ニ於テハ各通ニ番號ヲ附シ内一通ニ對シ支拂ヲ爲シタル時ハ他ノ各通ハ無効タル可キヲ記載ス可シ

第四條 爲替手形ノ金額ハ五圓以上ニ限ル者トス

第二節 支拂期限

第五條 爲替手形ノ支拂期限ハ左ノ如ク區別ス

一 一覽拂

二 定期拂

○第八章銀行○第三節爲替手形約束手形條例

三 一覽後定期拂

第六條 一覽拂ノ手形ハ其呈示ヲ受ケタル時直ニ仕拂フ可キ者トス

第七條 定期拂ノ手形ハ手形ニ定メタル期日ニ支拂フ可キ者トス

第八條 一覽後定期拂ノ手形ハ一覽濟ノ日ヨリ其日數ヲ起算シ手形ニ定メタル期日ニ支拂可キ者トス

第九條 一覽拂ノ手形及ヒ一覽後定期拂ノ手形ハ振出ノ日附ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ呈示ス可シ

第十條 定期拂ノ期限ハ振出ノ日附ヨリ一覽後定期拂ノ期限ハ一覽濟ノ日ヨリ六ヶ月以内ト爲ス

第三節 爲替資金

第十一條 振出人ハ支拂人ニ對シ爲替資金ヲ交付スルノ義務アル者トス

第十二條 振出人ヨリ支拂人ニ對シ貸方計算アル時ハ之ヲ以テ爲替トス資金ニ供用スルヲ得

第四節 裏書

第十三條 爲替手形ハ裏書ヲ以テ其所有權ヲ移轉スルヲ得

第十四條 裏書ニハ買受人又ハ讓受人ノ氏名及ヒ年月日ヲ記載シ賣渡人又ハ讓渡人氏名住所ヲ記シ調印ス可シ

第十五條 裏書人ハ振出人及ヒ自己以前ノ裏書人ト共ニ自己以後ノ裏書人及ヒ手形所持人ニ對シ相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

第十六條 手形ノ裏面ニ餘白ナキ時ハ補箋ヲ爲シ裏書ヲ爲スヲ得

第五節 保証

第十七條 振出人裏書人及ヒ支拂人ハ他人ヲシテ手形ノ支拂ヲ保証セシムルヲ得

保証人ハ其保証ノ旨ヲ手形又ハ別紙ニ記載スヘシ

第十八條 振出人裏書人ノ保証人ハ本人義務ヲ欠タル場合ニ於テ本八ニ代リ他ノ義務者ト相連帶シテ償還ノ責任ヲ負フ者トス

○第八章銀行○第三節爲替手形約束手形條例

第十九條 保証人支拂ヲ爲シタル時ハ本人ニ代リ其權利ヲ有スル者トス

第六節 引受

第二十條 定期拂手形及ヒ一覽後定期拂手形ノ所持人ハ支拂人ニ其引受ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ其旨及ヒ年月日ヲ手形ニ記載シ記名調印スヘシ

第二十二條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケタル時ハ振出人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ト雖モ其取消ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 支拂人手形ノ支拂ヲ引受ケサル時ハ所持人ハ引受ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第二十四條 所持人拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其旨ヲ電信書留郵便其他証據トナル可キ手續ヲ以テ振出人又ハ裏書人ニ通知シテ爲替金額及ヒ諸費用ニ相當スル抵當又ハ保証人ヲ以テ保證ヲ立テシムル

コトヲ得

通知ヲ受ケタル裏書人ハ振出人又ハ自己以前ノ裏書人ニ對シ所持人同一ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 振出人又ハ裏書人ノ内既ニ相當ノ保證ヲ立タル者アル時ハ其以後ノ裏書人ハ保證ヲ立ルノ義務ヲ免ル、者トス

第七節 支拂

第二十六條 手形ニ貨幣ノ種類ヲ記シタル時ハ其貨幣ヲ以テ支拂ヲ可シ

第二十七條 手形所持人ハ支拂期限ニ於テ其支拂ヲ請求ス可シ若シ定式ノ祝日祭日或ハ慣習ノ休業日ニ當ル時ハ其翌日之ヲ請求ス可シ

第二十八條 手形所持人支拂金ヲ受取ル時ハ手形ニ領取ノ旨ヲ記載シ記名調印シテ金額ト引換ヘ支拂人ニ交付ス可シ

第二十九條 一ノ爲替ニ付キ手形數通アル時ハ支拂人ハ其引受ヲ記載シタル手形ニ對シ支拂ヲ爲スコトヲ得

○第八章銀行○第三節爲替手形約束手形條例

第三十條 支拂人期限ニ至リ手形ノ支拂ヲ爲サ、ル時ハ手形所持人ハ支拂ノ拒ミ證書ヲ受ク可シ

第三十一條 支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル者ハ其旨ヲ電信書留郵便其他證據トナル可キ手續ヲ以テ振出人及ヒ各裏書人ニ通知ス可シ

第八節 拒ミ證書

第三十二條 支配人手形ノ引受又ハ支拂ヲ拒ム時ハ手形ニ附箋ヲ爲シ其旨及ヒ年月日ヲ記載シ記名調印ス可シ之ヲ拒ミ證書ト爲ス

第三十三條 支拂人拒ミ證書ヲ作ルヲ肯セス又ハ其住所分明ナラズ又ハ不在ニテ代理人ナキ時ハ所持人自ラ其始末ヲ記シ記名調印シテ郡區役所若クハ戸長役場ノ證印ヲ受ケ拒ミ證書ニ代用ス可シ

第三十四條 支拂人身代限ノ處分ヲ受ケタル場合ニ於テハ支拂期限前ト雖モ手形所持人ハ拒ミ證書ヲ受クルヲ得

第九節 償還ノ要求

第三十五條 手形所持人支拂ノ拒ミ證書ヲ受ケタル時ハ其日附ヨリ十五日以内ニ振出人裏書人ノ中一人若クハ數人ニ對シ爲替手形ノ金額期限後ノ利子及ヒ拒ミ證書并ニ通知ノ費用ノ償還ヲ要求スルヲ得

第三十六條 第三十五條ノ要求ニ對シ償還ヲ爲シタル裏書人ハ其日ヨリ十五日以内ニ自己以前ノ裏書人又ハ振出人ノ中一人若クハ數人ニ對シ自己ノ償還シタル金額及ヒ其利子ヲ要求スルヲ得

第三十七條 振出人ハ爲替資金ヲ支拂人ニ交付シタルノ故ヲ以テ償還ノ要求ヲ拒ムヲ得ス

第三十八條 要求ヲ受ケタル者ハ拒ミ證書ヲ附シタル爲替手形及ヒ證據ヲ添ヘクル計算書ト引換ヘコ非レハ償還ヲ爲スコ及ハス

第三十九條 第九條ノ呈示期限第二十七條ノ支拂請求期限及ヒ第三十五條第三十六條ノ要求限期ヲ怠リタル者ハ裏書人及ヒ爲替資金

○第八章銀行○第三節爲替手形約束手形條例

ヲ交付シタル振出人ニ對シ要求ノ權利ヲ失フ者トス但引受ヲ爲シ若クハ爲替資金ヲ受ケタル支拂人又ハ資金ヲ交付セサル振出人ニ對シ第九條第二十七條ノ期限ニ係ル者ハ振出ノ日附ヨリ起算シ第三十五條第三十六條ノ期限ニ係ル者ハ拒ミ證書ノ日附ヨリ起算シテ三ヶ年間償還ヲ要求スルコトヲ得

第十節 紛失

第四十條 手形所持人手形ヲ紛失シタル時ハ直ニ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ其手形ノ流通ヲ止ムル旨ヲ廣告シ又電信書留郵便其他証據トナル可キ手續ヲ以テ支拂人ニ通知シ其支拂ヲ止メシム可シ

第四十一條 手形紛失人ハ振出人ニ紛失ノ旨ヲ証シ代手形ヲ請受ケ各裏書人ヲシテ再ヒ之ヲ裏書セシメ更ニ其手形ヲ流通スルコトヲ得但振出人ハ手形紛失人ヲシテ保証ヲ立テシムルコトヲ得

第四十二條 手形紛失人代手形ヲ受ケ得サル時ハ支拂期限ニ至リ支

拂人ニ對シ真正ノ所持人タル旨ヲ證明シ支拂ヲ請求スルコトヲ得但支拂人ハ手形紛失人ヲシテ保証ヲ立テシムルコトヲ得

第二章 約束手形

第四十三條 約束手形ハ振出人記載ノ金額ヲ受取人又ハ其所有權ヲ受ケタル人ニ自ラ支拂フ可キ旨ヲ約束シタル証券ヲ謂フ

第四十四條 約束手形ハ定期拂ニシテ金額ハ貳拾五圓以上ニ限ル者トス

第四十五條 爲替手形ニ付キ定メタル規則ハ第三節第六節其他約束手形ノ性質ニ反スル條目ヲ除クノ外之ヲ約束手形ニ適用ス可シ

第三章 通則

第四十六條 第三十五條第三十六條ノ要求期限ハ路程ニ要スル日數八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ與フルモノトス

第三十五條第三十六條ノ要求期限及ヒ第九條呈示ノ期限外國ト關係スルモノハ其路程ニ要スル相當日數ノ猶豫ヲ與フルモノトス

○第八章銀行○第三節爲替手形約束手形條例

第四十七條 第一節第四節及ヒ第四十三條第四十四條ノ規程ニ合セ
サル手形ハ裏書ヲ以テ所有權ヲ移轉スルコトヲ得ス

(增) ○明治十六年一月廿九日大藏省第八号告示

明治十五年十二月第五十七号布告ヲ以テ爲換手形約束手形條例發行
相成候ニ付テハ右手形ニ關スル書式ハ總テ別冊雛形ニ準據可致此旨
告示候事

別冊(別冊雛形ハ全報第七十九号第二十三丁以下ニ在ルヲ以
テ是レヨリ拆出シテ挿入スベシ)

○第九章 章酒造規則

○明治十三年九月二十七日第四十号布告

酒造稅則

第一章 免許鑑札 稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出

酒造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造

スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒

清酒濁酒其他釀造
シタルモノヲ云フ

二類 蒸溜酒

燒酎「酒精再溜酒精」其他
蒸溜シタルモノヲ云フ

(「符内ノ六字ハ明治十五年
第十七号布告ヲ以テ加入ス」)

三類 再製酒

銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ
又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一号布告ヲ以テ左ノ如ク改正追
加ス 但シ第三條改正ハ明治十六年十月一日ヨリ施行ス

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ其額左ノ如ク

酒造免許稅

酒造場一ヶ所ニ付

金三十圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付

金四圓

○第九章 酒造規則

二類壹石ニ付 金五圓
三類壹石ニ付 金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス
▲明治十五年十二月二十七日第六十一号布告ヲ以テ左ノ如ク追加ス

第四條二項三項

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス

清酒 百石

濁酒 拾石

一類ヲ除ク 清酒濁酒 二類三類 五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

▲明治十五年三月二十三日第十七号布告ヲ以テ第一期第二期ヲ左ノ如ク更正ス

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中検査濟石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 七月三十一日限

三月一日ヨリ六月中検査濟石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 九月三十日限

七月一日ヨリ皆造検査済石数ニ係ル税額並前納額ノ残数
第十條 造酒ノ石数ハ總テ管廳ヘ申出テ検査ヲ受クヘシ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一号布告ヲ以テ左ノ如ク追加ス
第十條二項

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スルモノハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受ケ
現石数ニ付納税スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二個所以上免許ノ者共一個
所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移スルハ管廳ヘ届出且製
成ノ上検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總
テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未造ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和

スル者モ其造石税ハ總石数ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製(第一章第二條
中一類ノ酒ヲ二類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類)スル時ハ造石税ハ其
變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石
数ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石数ニ就キテ造石税ヲ納ムヘシ
但シ變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ

第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ
第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳
ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石数ニ應シ造石
税ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石数ニ
係ル造石税ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納ムヘシト雖ニ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ檢査ヲ受クヘシ

第二十條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳へ申出其容量ノ檢査ヲ受クヘシ

但賣買等ハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もトヲ販賣スルヲ許サス

▲明治十五年三月二十三日第十七号布告ヲ以テ左ノ通り但書ヲ追加セラル

但事故アリテ酒もトノ不用ニ属シタルモノヲ同業ノ者ニ限り賣

渡スハ此限ニ在ラス

▲明治十五年十二月二十七日第六十一号布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス
第二十二條 他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非カ
ルモノニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒釀場ヲ貸スヲ許サス

第二十三條 檢査未済ノ種類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ
消糜スルヲ許サス

檢査既済ノ酒類へ檢査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒(摺リ蒸溜)器ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使
用スルキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但シ過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ請
フヘシ

第二十六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節官廳へ該一期造酒見込ノ種目

○第九章 酒造規則

石數並ニ其造リ方法共届出ヘシ

但種目變換並ニ見込石數ノ増減等ハ其時々届出可シ

第二十七條 酒造ニ属スル倉庫納屋並ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ベシ

但増減ハ其時々届出ベシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許

鑑札ノ番号ヲ書載シ之ヲ戶外ニ掲出スベシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケヌシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造

諸器械共沒收シ免許税額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其

石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ併セ科スベシ

但シ本文酒類並ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

ベシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ

之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スベシ

▲明治十五年十二月二十七日第六十壹号布告ヲ以テ第三十一條第三

十二條第三十四條左ノ如ク改正ス

第三十一條 酒類石數ノ検査ヲ受ケヌシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與

シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ

金額ヲ科スベシ

但シ第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限リニ非ス

第三十二條 酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ

相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スベシ

但(明治十五年三月二十三日第十七号布告ヲ以テ但書ヲ削除ス故

ニ略ス)

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル

造石税ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スベシ

○第九章 酒造規則

第三十四條 第十四條又ハ第二十條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

▲明治十五年十二月二十七日第六十一号布告ヲ以テ第三十五條以下左ノ如ク追加ス

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條ヲ犯シテ檢査ヲ受ケサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第三十六條 第十條第二項第二十一條第二十二條第二十三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條 自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ)及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ(及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ)ヲ製造スル者ハ管廳へ届出製造免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石(二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス)ヲ超ユルヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條 自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或

ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第八條 第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓

以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌

キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第九條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ

適用ス

○第十章 醬麴營業規則

○明治十三年九月廿七日布告

第四十一号

醬麴營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ醬麴(醸造酒類ノもと)ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ

其旨管廳ニ願出製造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシ

テ左ノ通り納ムヘシ

醬麴營業稅

金五十圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管

廳ニ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナ

ク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ニ差出シ検査ヲ受クヘシ

▲明治十五年十二月二十七日第六十一号布告ヲ以テ第五條第二項左

ノ如ク追加ス

○第十章 醬麴營業規則

醬麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ検査スヘシ
 第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ
 書換ヲ請フヘシ
 第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ
 願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ
 第八條 免許ヲ受ケタル者ハ醬麴賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札
 ノ番号ヲ記載シ戶外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サズ
 第十條 免許鑑札ヲ受ケス醬麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅
 二倍ノ金額ヲ徴スヘシ
 第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ講求人ノ居所姓名等ノ帳記
 ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラズ

五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徴スヘシ

▲明治十五年十二月廿七日第六十一号布告ヲ以テ第十二條以下左ノ
 如ク追加ス

第十二條 醬麴營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醬麴受賣酢造營業ヲ爲
 シ又ハ酒類除ク醬麴ヲ製造スルヲ許サズ

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處
 シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ黒械ヲ沒収ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代
 價ヲ追徴スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重
 數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニア
 ラズ

第十五條 醬麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シ
 タル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

○第十章 醬麴營業規則

○第十一章 煙草規則

○明治八年十月四日第五百五十号布告(明治十五年十二月廿七日第六十号布告ヲ以テ改正セラレタルニ付キ此處ニ掲載スベキニアラサル)ヲ誤テ登錄セリ因テ今之ヲ削除ス

○明治十五年十二月二十七日第六十三号布告

明治八年(十月)第百五拾號布告煙草稅則別紙ノ通改定シ來十六年七月一日ヨリ施行ス

但明治十年(二月)第拾四號布告第一項ハ廢止ス

煙草稅則

第一章 煙草營業

第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人

煙草仲買人

煙草小賣人

第二條 刻煙草又ハ卷煙草等ヲ製造スル者ヲ煙草製造人トス但賃銀

ヲ受ケテ他ノ製造人ノ煙草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス

第三條 未製造ノ煙草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者へ賣渡シ及製

造煙草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者へ賣渡ス者ヲ煙草仲買人トス

第四條 製造煙草ヲ自用者へ賣捌ク者ヲ煙草小賣人トス

第二章 營業鑑札

第五條 煙草營業者ハ管轄廳へ願出營業鑑札ヲ受ク可シ但製造仲買

及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受ク可シ

第六條 煙草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲スト

キハ管轄廳ニ願出仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帶ス可シ

第七條 煙草營業者ハ鑑札ヲ受クルトキ左ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

煙草營業鑑札料 壹枚ニ付金貳拾錢

煙草仕入鑑札料 壹枚ニ付金拾錢

○第十一章 煙草規則

烟草出賣鑑札料 壹枚ニ付金拾錢

第八條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フ可シ但前條ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

第九條 營業人廢業スルトキハ管轄廳ヘ届出鑑札ヲ還納ス可シ

第十條 鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓渡ヲ爲スヲ得ス

第三章 營業稅

第十一條 烟草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ

烟草製造營業稅 壹ケ年 金拾五圓

烟草仲買營業稅 壹ケ年 金拾五圓

烟草小賣營業稅 壹ケ年 金五圓

第十二條 烟草營業稅ハ年々兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限管轄廳ニ納ム可シ但新ニ開業スル者

ハ營業鑑札ヲ受ル節其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第四章 印稅

第十三條 烟草製造人刻烟草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造

紙包又ハ箱詰ニ裝置シ相當ノ印紙ヲ用フ可シ

量目 印稅ニ付二十五錢 同 卸賣定價百匁ニ付二十五錢以上 同 卸賣定價百匁以上ノ分

未滿ノ分

五匁 二厘

三厘

四厘

十匁 四厘

六厘

八厘

十五匁 六厘

九厘

一錢二厘

廿匁 八厘

一錢二厘

一錢六厘

三十匁 一錢二厘

一錢八厘

二錢四厘

五十匁 二錢

三錢

四錢

百匁 四錢

六錢

八錢

第十四條 刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ

箇所及印紙ノ彩紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包
ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ
第十五條 刻烟草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以
テ結束ス可シ

第十六條 刻烟草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙
類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス

第十七條 外國ヘ輸出スル烟草ニ限リ輸出ノ節税關ニ於テ戻税トシ
テ印税相當ノ金額ヲ輸出人ヘ下付ス可シ

第十八條 烟草印紙ノ種類價格左ノ如シ

帶印紙	黒色	一枚	二厘
同	淡赭色	同	三厘
同	黄色	同	四厘
同	赭色	同	六厘

同	萌黄色	同	八厘
同	淡青色	同	九厘
同	茶褐色	同	一錢二厘
同	淡紅色	同	一錢六厘
同	桔梗色	同	一錢八厘
同	橙黄色	同	二錢
同	老綠色	同	二錢四厘
同	濃青色	同	三錢
同	黄綠色	同	四錢
同	紫色	同	六錢
同	赤色	同	八錢

第十九條 烟草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシ
ム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條 印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章 雜則

第二十一條 刻煙草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記ス可シ

第二十二條 煙草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻煙草ヲ所持スル

コトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二十三條 煙草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ

以テ定ムル所ニ從フ可シ

煙草製造人

煙草製造帳

煙草仲買人

煙草買入帳 煙草賣渡帳

煙草小賣人

煙草買入帳

第二十四條 煙草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買

入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條 印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及

買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十六條 煙草營業者ハ煙草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ

帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條 煙草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ煙

草買入高賣捌高製造高并印紙買入高及六月三十日ノ煙草并印紙ノ

現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十八條 印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印

紙賣捌高并買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出

ツ可シ

第二十九條 煙草營業者ハ營業ノ標札ヲ戶外ニ掲出ス可シ但書式ハ

○第十一章 煙草規則

布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條 印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 未製造ノ烟草ハ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與讓與ノ名義ヲ以テスルモ亦同シ

第六章 検査

第三十二條 烟草營業者ノ帳簿及其所持ノ烟草ハ主任官隨時之ヲ検査ス可シ

第三十三條 検査官吏ハ検査ノ時官ノ印章ヲ携帯シ營業者ノ求ニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章 罰則

第三十四條 營業鑑札ヲ受ケヌシテ烟草營業ヲ爲ス者ハ營業稅違脱ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ烟草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第三十五條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徴ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同シ其罪ヲ論ス

第三十六條 帳簿ノ登記ヲ詐テ脱稅ヲ謀リ若シハ脱稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ届書ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス之ヲ借受讓受ケタル者モ同シ其罪ヲ論ス

第三十八條 第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル烟草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

○第十一章 烟草規則

第三十九條 管轄廳ノ許可ヲ得シテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 未製造ノ烟草ヲ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第十三條ノ烟草裝置區分ニ違フ者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第四十二條 鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 烟草自用者コシテ未製造ノ烟草又ハ無印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條 第八條第九條第二十七條第二十八條ノ届出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科

料ニ處ス

第四十五條 第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條 烟草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

(增)明治十六年四月十七日大藏省第二十號達

客歲十二月第六十三號布告ヲ以テ烟草稅則改定相成候ニ付取扱心得方別紙ノ通相定候條此旨相達候事

烟草稅則取扱心得書

第一項烟草營業免許鑑札并ニ烟草印紙ハ其負數ヲ見積リ租稅局ヨリ之ヲ受取ルベシ

但煙草印紙ノ受拂ハ總テ証券印紙ノ例ニ準スベシ

第二項 煙草仕入鑑札出賣鑑札煙草印紙買入鑑札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ
府縣廳ニ於テ調製シ之ヲ下渡スベシ

木製 寸法 豎巾二寸三分
横巾一寸七分

番号 仕入出賣ノ文字ハ營業ノ種類ニ依リ記載スベシ

表	番号
煙草仕入鑑札	
出賣鑑札	
製造	
仲買人住所姓名	
小賣	
攜帶人姓名	

裏	面
明治何年何月	
管轄廳燒印	

表	番号
煙草印紙買入鑑札	
製造	
仲買人姓名	
小賣	

裏	面
明治何年何月	
管轄廳燒印	

第三項 稅則第三十二條煙草稅檢査手續ハ府縣廳ニ於テ相定メ大藏
省へ届出ヘシ

但改正變更等ハ其時々本文ノ手續ヲ爲スベシ

第四項 稅則第三十三條檢査官吏ノ攜帶スヘキ印章ハ左ノ雛形ニ倣
ヒ府縣廳ニ於テ調製スベシ

寸法 豎巾二寸三分
横巾一寸七分

厚紙厚製

表	第何号
煙草稅檢査印章	
府縣官姓名	

裏	面
府縣	
廳印	

第五項 左ノ諸表ハ別紙雛形ニ照準毎半期之ヲ調製シ各翌月二十五
日限差立租稅局へ送付スヘシ

○第十一章 煙草規則

烟草營業稅表

第一号雛形

烟草印紙稅表

第二号雛形

烟草印紙受拂計算表

第三号雛形

烟草營業鑑札受拂計算表

第四号雛形

烟草(仕入出賣印紙買入)鑑札下渡高計算表第五号雛形

(雛形ハ零ス)

(增)明治十六年六月四日太政官第十八号布達

明治十五年(十二月)第六十三号布告烟草稅則本年七月一日ヨリ施行候

ニ付左ノ通心得ベシ

烟草仲買人小賣人ニシテ稅則施行前ヨリ製造烟草ヲ所持スル者ハ本年限リ其所持人ニ於テ稅則第十三條ニ據リ印紙ヲ貼用スルヲ得但シ此場合ニ於テハ所持人ハ稅則第二十一條ノ製造人ニ準シ自己ノ氏名住所ヲ附記スベシ

稅則施行前既ニ裝置セル製造烟草ハ本年限リ其裝置ノ儘賣捌ヲ得尤モ稅則第十三條ニ照ラシ不足ニ係ル印紙ハ增加貼用スベシ印紙ハ舊長印紙及ヒ十錢印紙ヲ除クノ外當分新舊取交セ使用スベシ舊長印紙及ヒ十錢印紙ハ賣捌所ニ就テ引換ヲ乞フベシ

(增)明治十六年六月十一日太政官第二十號布達

明治十五年(十二月)第六十三號布告烟草稅則中左ノ通り心得ベシ

第一項 稅則第二條製造人ハ未製造ノ烟草ヲ耕作人又ハ仲買人ヨリ買入レ之ヲ製造シ仲買人又ハ小賣人ニ賣渡スヲ云フ

第二項 稅則第三十一條烟草(營業者)トアルハ製造人仲買人ノミヲ云フ

第三項 稅則第二十條烟草印紙ノ貼用ハ第一號雛形ノ通り之ヲ貼用シ其價格及ヒ量目ヲ付記スベシ帶印紙ハ結束ノ上兩端ニ余紙アル

モ之ヲ截斷スヘカラス

第四項 稅則第廿一條製造人ノ氏名住所ハ箱詰紙包ハ其見易キ箇所

帶印紙ハ其印紙彩紋ノ側面ヘ記載スベシ

第五項 稅則第十四條煙草印紙ノ消印ハ七分己上ノモノヲ用井墨肉ヲ以テ押捺スベシ

第六項 稅則第十七條ニ據リ輸出煙草ノ戻稅ヲ請フ者ハ第十三條ノ印稅區別ニ依リ裝置種類ヲ分チ個數量目及ヒ印紙稅金額ヲ仕譯ケタル書面ヲ以テ其輸出港ノ稅關ヘ出願シ檢査ヲ受クベシ

第七項 稅則第廿三條ノ帳簿ニハ左ノ件々ヲ記載スベシ

製造人

煙草製造帳

年月日種類及ヒ未製造煙草何程ヲ何某ヨリ買入レ何程ニ製造シ其裝置種類定價區別量目個數代價及ヒ賣渡ノ數等ヲ記スベシ

仲買人

煙草買入帳

年月日種類價格量目及ヒ賣主ノ氏名住所ヲ記スベシ但製造煙草ト製造煙草トハ帳簿若クハ記入口譯ヲ異ニスベシ以下之ニ準ス

同

煙草賣渡帳

年月日種類價格量目及ヒ買主ノ氏名住所ヲ記スベシ但書前ニ同シ

小賣人

煙草買入帳

未製造品買入ノコトヲ除クノ外總テ仲買人ノ帳簿ト同シ

第八項 稅則第二十七條第二十八條ノ届出ヲ爲スルハ第二號離形ニ倣ヒ之ヲ調製スベシ

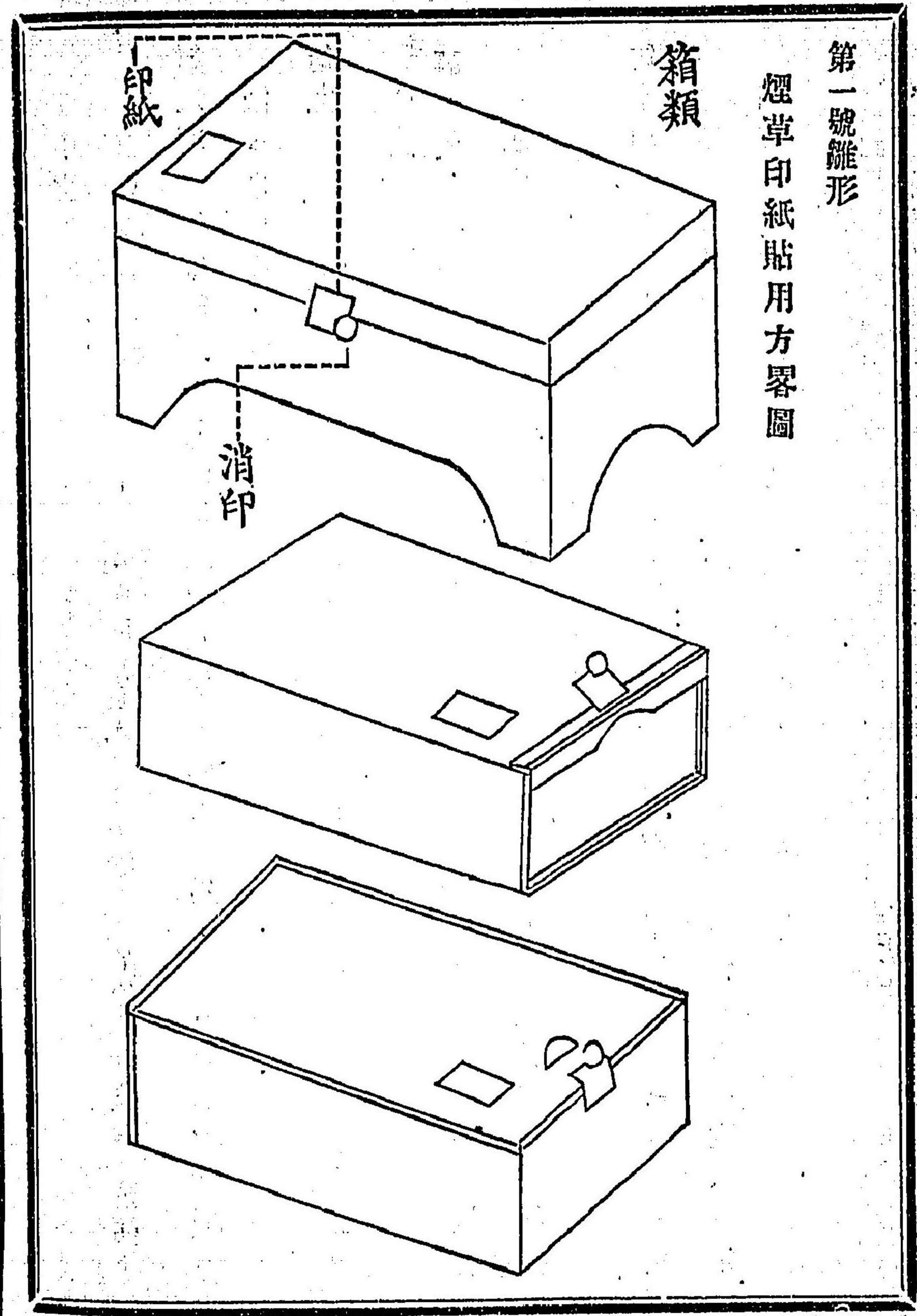
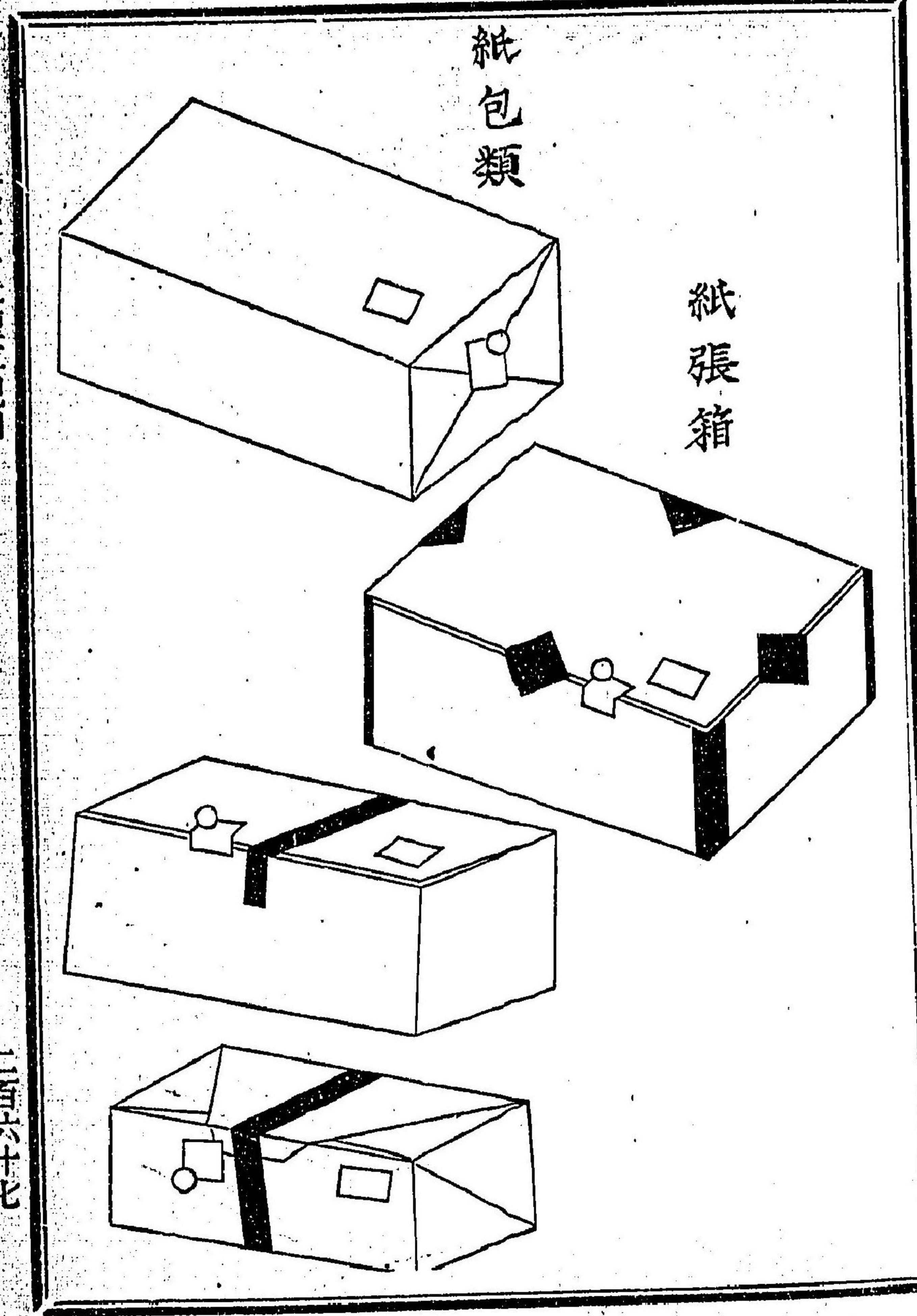
第九項 稅則第二十九條營業人ノ標札ハ第三號離形ニ倣ヒ各自之ヲ調製スベシ

第十項 煙草製造人ハ其製造所及ヒ器械ノ員數増減共其時々管轄廳ヘ届出ヘシ但シ賃切リニ付スルモノハ其賃切人ノ氏名住所并使用スル器械ノ員數及ヒ増減トモ其時々管轄廳ヘ届出ヘシ

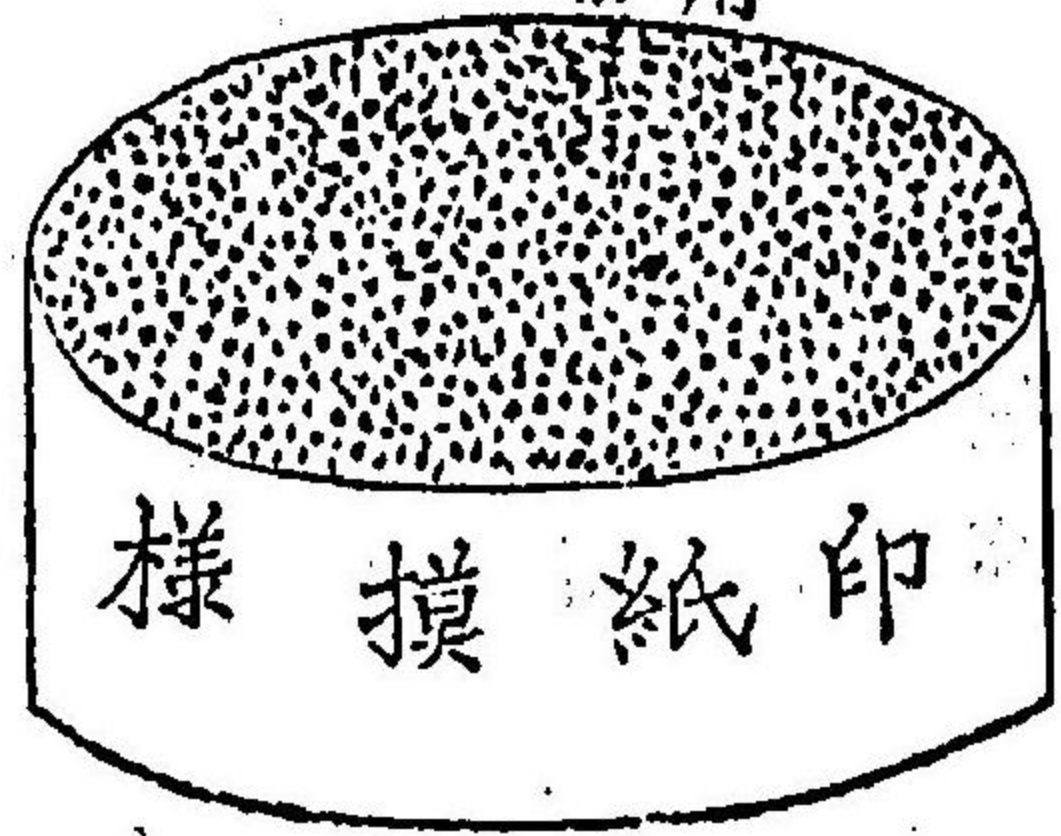
第十項 仲買人小賣人ニシテ裝置煙草ヲ五匁以下崩賣ニ爲スルハ稅則第十五條ニ據リ結束スベシ但此場合ニ於テハ仲買人小賣人ハ第四項第五項ニ據リ自己ノ氏名住所ヲ付記スベシ

第十一項 稅則第十五條ニ據リ結束スベシ但此場合ニ於テハ仲買人小賣人ハ第四項第五項ニ據リ自己ノ氏名住所ヲ付記スベシ

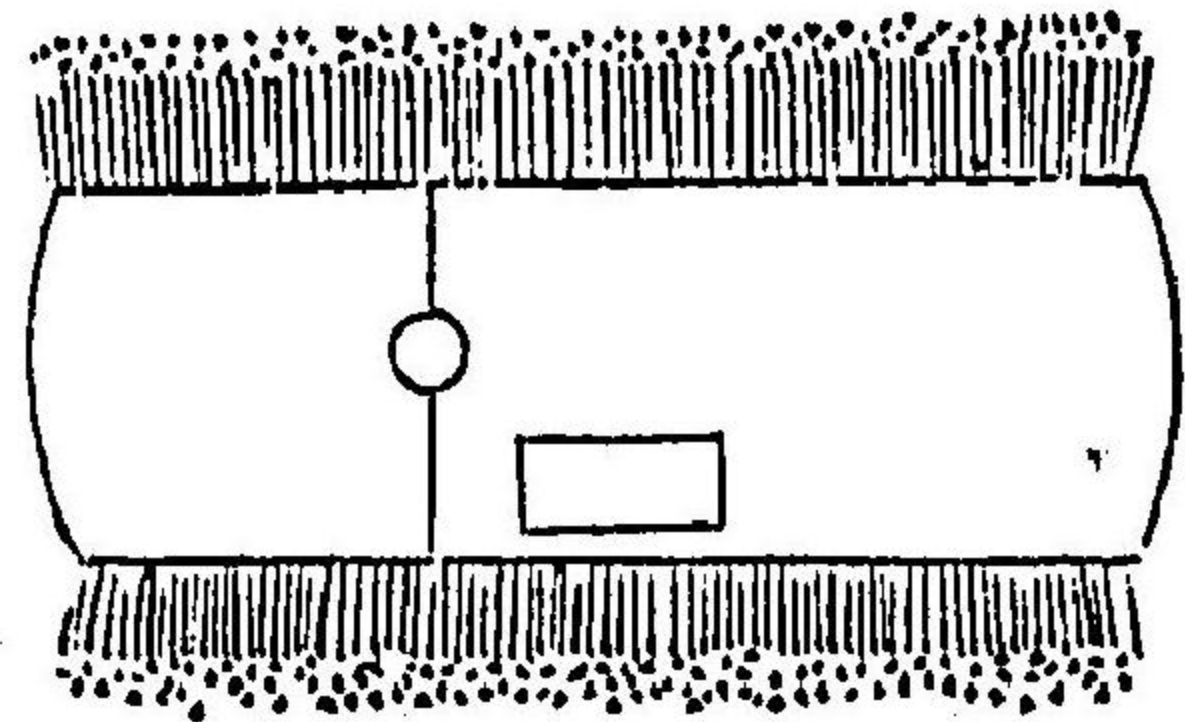
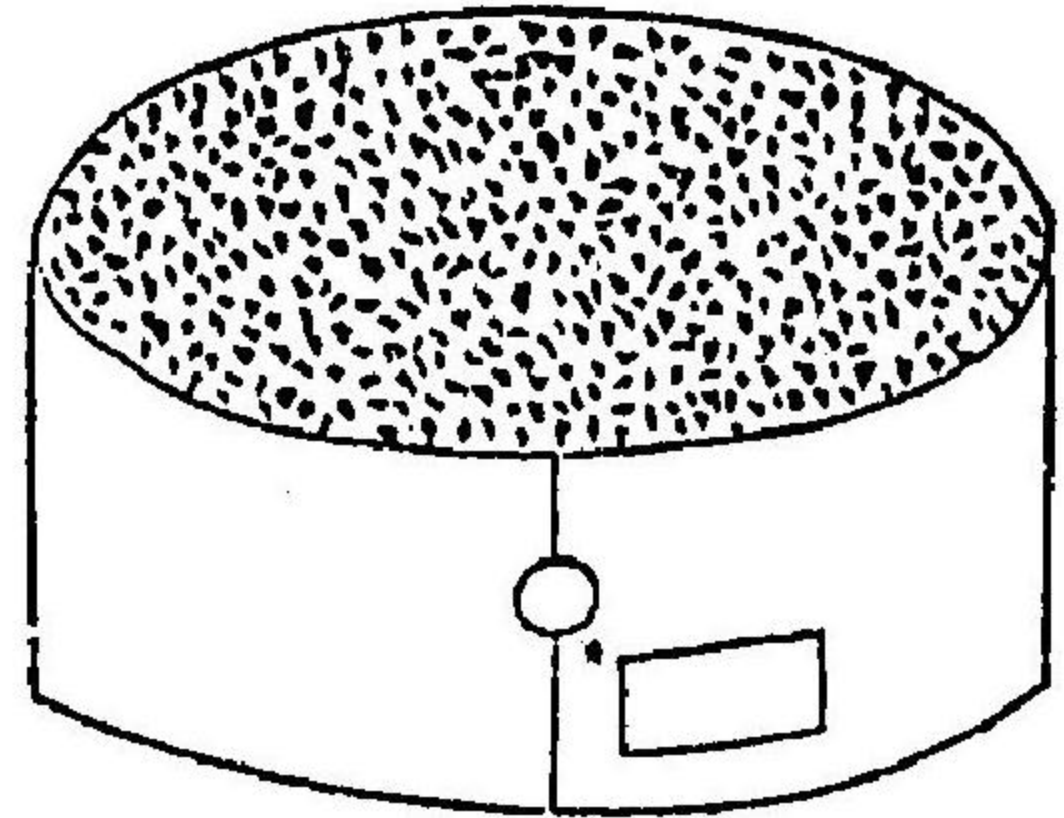
○第十一章煙草規則



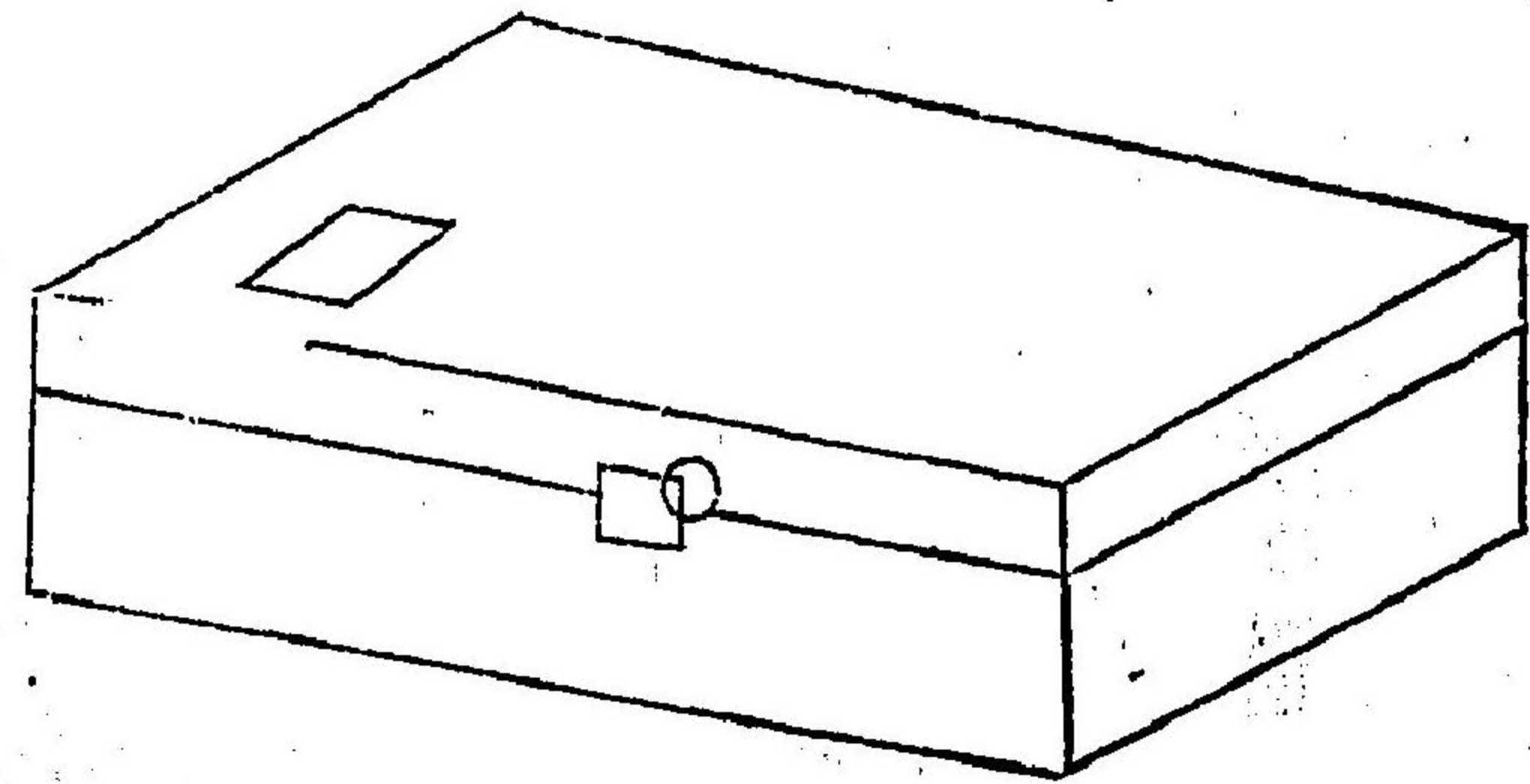
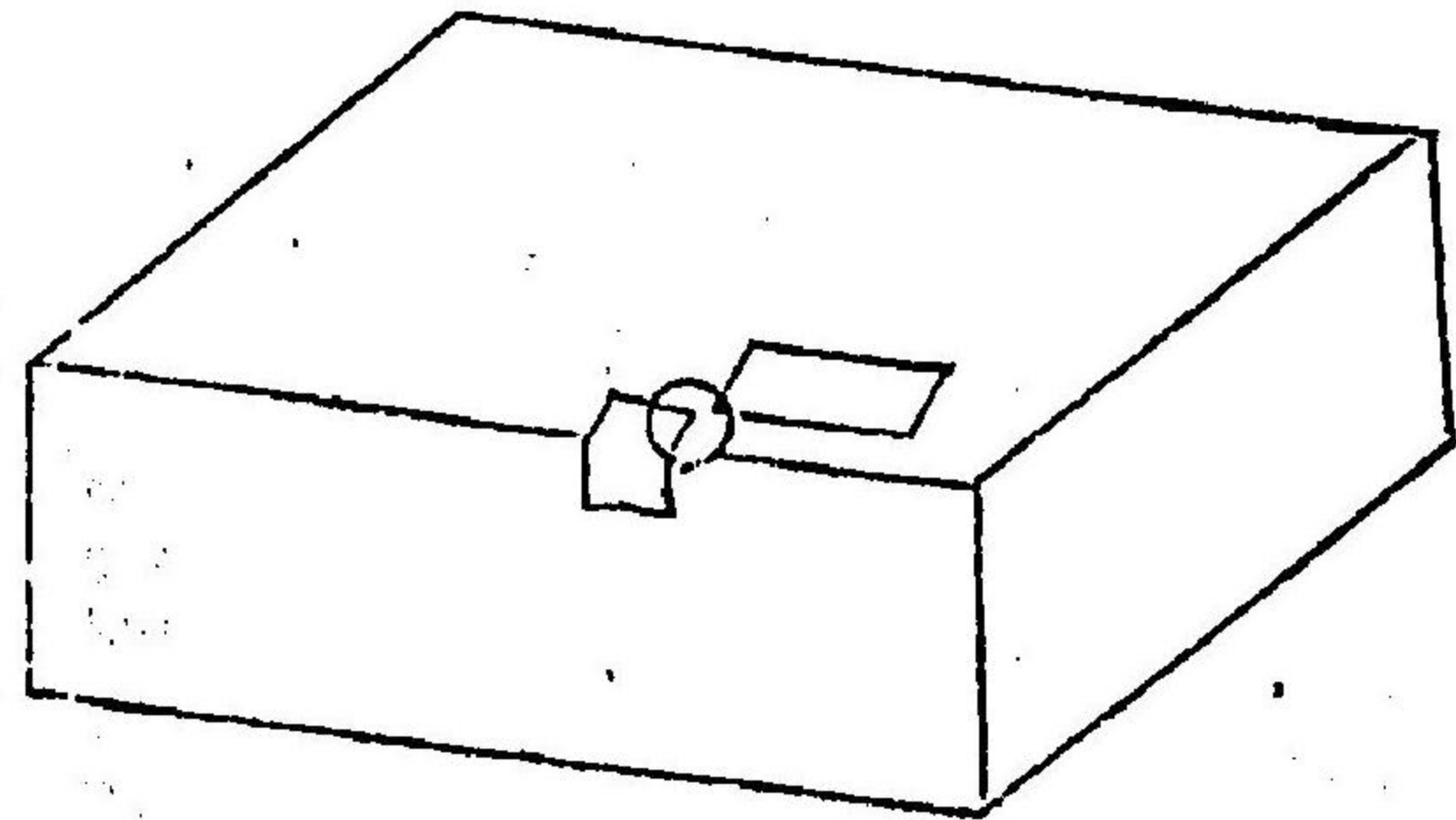
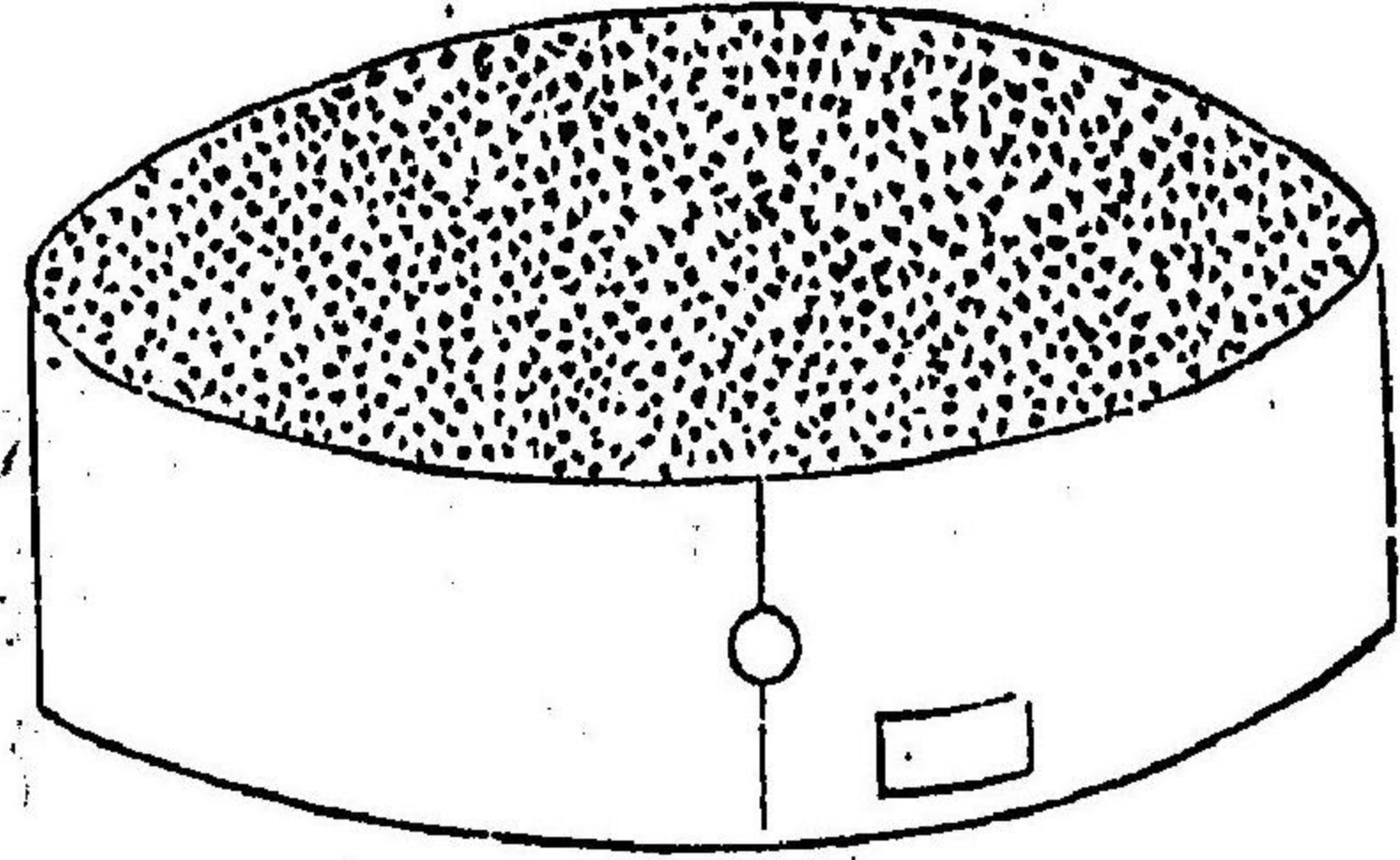
帶印紙貼用
表面
玉造



全
裏面



玉造



第二號雛形

明治何年何月ヨリ
何年何月マテ 壹々年分煙草及印紙出入高計算帳

未製造ノ煙草越高	全 買入高	全 賣捌高	差 引 殘 高	製造煙草越高	全 買入高	全 賣捌高	差 引 殘 高	煙草印紙越高	全 買入高

第三号雛形

全 賣捌高	差 引 殘 高

右之通相違無之候也

年月日

(製造)
(仲買) 人住所姓名
(小賣)

府知事 宛
縣令

鑑札番号

煙草 (製造) (仲買) (小賣) 營業

營業人住所姓名

○第十二章 銃砲規則

○第一節 鳥獸獵規則

○明治十年一月廿三日第十一號布告

鳥獸獵規則

第一條 小銃ヲ用テ鳥獸ヲ獵シ生業トスル者ヲ職獵トシ遊樂ノ爲メ
ニスルヲ遊獵トス

第二條 銃獵免狀ナキ者ハ總テ銃獵スルヲ禁ス但有害ノ鳥獸ヲ除ク
カ爲メニハ地方官ノ便宜ヲ以テ臨時ノ免許ヲ與フヘシ

第三條 銃獵免狀ヲ得ント欲スル者ハ願書ニ族籍職分住所姓名年齢
ヲ詳記シ東京府下ニ於テハ警視廳舊ト内務省ノ處十四年九月十三
日第四十三号布告ヲ以テ改テ農
商務省ト爲シ更ニ同年十一月四日第六十一號布告ヲ以テ改テ農
改ム故ニ今此ニハ改正公布ニ從ヒ直ニ警視廳ト記ス其第六條モ亦
同其他ハ該地方管廳ニ差出スヘシ

第四條 免狀ハ其効一期限ニ止ルモノトス免狀ハ貸借シ賣買シ若ク

ハ授受スルヲ禁ス

第五條 免狀ヲ願受クル者ハ左ノ通免許税ヲ納ムヘシ

一 職獵税 金壹圓

一 遊獵税 金拾圓

第六條 水火盜難其他ノ事故ニ依リ免狀ヲ毀失スル時ハ速カニ東京
府下ニ於テハ警視廳其他ハ該地方官廳ニ届出ヘシ再ヒ免狀ヲ願受
ル者ハ更ニ税金ヲ納ムルニ及ハスト雖ヒ手数料トシテ金二十五錢
ヲ納ムヘシ

第七條 左ニ記列シタル者ニハ免狀付與セサルヘシ

一 十六歳未滿ノ者

一 白痴風癲等ノ者

一 故ナク弓箭銃砲ヲ放ツノ刑ヲ受ケシ者

第八條 左ニ記列シタル場所ニ於テハ獵銃ヲ爲スヲ禁ス

○第十二章 銃砲規則 ○第一節 鳥獸獵規則

一都府市街ハ勿論衆人羣集ノ場所

一銃丸ノ達スベキ恐レアル人家ニ向ヒタル距離

一禁獵制札ノ場所

但制札ハ獵銃ニ挺ヲ交叉シタル圖ハ下ニ銃獵禁制ノ四字ヲ記

シ掲ケ置クヘシ

一作物植付ケアル田畑内或ハ社寺人家等ノ構内

但該主又ハ管守人ノ許諾ヲ得タル者ハ此限ニアラス

第九條 獵銃ハ和銃玉目四匁八分以下並ニ西洋獵銃ニ限ルヘシ軍銃

ヲ用フルヲ禁ス

△明治十年十二月十七日第八十五號布告ヲ以テ左ノ如ク但書ヲ加フ

但開拓使管内ニ限リ和銃玉目拾匁以下ヲ用フルヲ得ヘシ

第十條 銃獵期限ハ十月十五日ヨリ四月十五日迄ヲ以テ一期トス是

期限ノ外ハ銃獵ヲ禁ス

但地方ノ景況ニ依リ己ムヲ得ス此期限ヲ伸縮スルハ其理由ヲ農商務省ヘ届出ヘシ

第十一條 日没ヨリ日出迄ノ時間ハ銃獵ヲ禁ス

第十二條 凡ソ出獵スル者ハ必ス其免狀ヲ携帯スヘシ出獵中警察官

吏區戸長村役人等免狀ヲ看ント請フ者アルハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十三條 地主其所有地内ニ於テ他人ノ銃獵スルヲ有害トスルハ

第八條所示ノ如キ制札ヲ立テ其周圍ニ繩張又ハ假圍ヲ爲スヘシ

第十四條 總テ一期内再犯以上ノ者ハ其罰金ヲ倍科スヘシ

第十五條 銃獵ヲ生業トスル者ニアラスシテ職獵ノ免狀ヲ受ケ遊獵

スル者ハ五十圓ノ罰金ヲ科シ免狀取上ケ其期内銃獵ヲ禁スヘシ

第十六條 總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ証跡ヲ取り訴出ルルハ犯人罰金ノ

半ヲ賞トシテ與フヘシ

第十七條 第十四條第十五條ノ外此諸規則ヲ犯ス者ハ三圓ヨリ少ナ

○第十二章銃砲規則○第一節鳥獸獵規則

カラス二十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ料スヘシ

△明治十年十二月十七日第八十五號布告ヲ以テ第十八條ヲ追加ス
第十八條 一開拓使管内ニ入り鹿獵ヲ爲ス者ハ該使施行ノ規則ニ遵
フヘシ

○第二節 銃砲取締規則

○明治五年正月廿九日第二十八號布告

銃砲取締規則 (明治八年六月廿八日第百十一號達ヲ以テ銃砲彈藥取
締ノ儀一切内務省へ管理セシメラレ候ニ付從來陸軍
省等へ申出ルハ都テ内務省へ出サシメ)
且ツ本則中牴觸ノ箇條ハ都テ廢セラレ

第一則

一大小銃並ニ彈藥類商賣ノ儀ハ府縣共定員商賣ノ外取扱致間敷右定
員ノ商賣ハ其地方管廳ニ於テ精選ノ上免許狀可差遣事
但東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ管轄スヘキ事
免許商賣ノ定員

一府下 各五員

一縣下 各三員

一鎮臺本分營下 各一員

但府縣廳下開港等ニアルハ別ニ設ケス

一開港場 各五員

右免許差遣候商賣ノ姓名住所等東京武庫司へ届ケヘキ事

第二則

一免許商人アリハ軍用ノ銃砲彈藥類ヲ竊ニ賣買不相成賣渡候節ハ買
主ヨリ官ノ免手形ヲ受取其員數ヲ照ラシ賣渡可中又買入ノ節ハ其
管廳へ願出免手形ヲ受其員數ヲ以テ買取可中事
但東京大坂ノ儀ハ武庫司へ可願出事

第三則

一免許ノ商人其賣買ノ銃砲彈藥ハ多少ヲ論セス買取賣渡共其主人ノ

○第十二章銃砲規則○第二節銃砲取締規則

姓名其物品ノ員數等明細附記シ軍用ノ者ハ免手形相添毎月其管廳
へ差出ス可シ其廳ヨリ毎月十日ヲ限リ管轄鎮臺へ差送可申事

但諸鎮臺ヨリ毎歲正月七月兩度半ケ年明細帳ヲ以テ東京武庫司
へ差送リ可申尤東京大坂ノ儀ハ武庫司ニ於テ取締可致事

第四則

一彈藥ノ儀ハ假令些少ノ品タリトモ唯便利ノミヲ計リ勝手ノ場所へ
差置間敷兼テ其地方管廳へ願出差圖ヲ受相圖可申事

但東京大坂ノ儀ハ武庫司へ願出へキ事

第五則

一華族ヨリ平民ニ至ル迄免許銃類ヲ除クノ外軍用ノ銃砲并彈藥類ハ
ストールニ至ル迄私ニ貯蓄不相成就テハ是迄銘々所持致居候軍用
銃砲ハ一々其管廳ニ持出東京大坂ハ武庫司へ持出別紙銃砲改刻印式ノ通番号
官印ヲ受可申他人へ讓與へ候節ハ第二則ノ手續ニ從フヘシ

但彈藥買入致シ度者モ亦二則ノ通りタルヘシ

銃砲改刻印ノ式

于支何番 武庫司或ハ何府縣

右所持ノ人名番号等逐一書記シ置管轄鎮臺へ届出鎮臺ヨリ東京

武庫司へ差送可申事

免許ノ銃類

一和銃四文目八分玉以下

一各國諸獵銃

但西洋獵銃ノ儀ハ其玉目稍大ナレハ霰彈ヲ用ユルモノハ之ヲ許ス
右獵用銃所持ノ者ハ其銃名員數等巨細附記シ其管廳へ届出其廳
ヨリ東京武庫司へ差出可申東京大坂ハ所持ノ者ヨリ萬一軍用獵
用銃ノ差別難相辨者官へ尋出候得ハ檢査ノ上免許ノ証印ヲ据へ
可相渡事

○第十二章銃砲規則○第二節銃砲取締規則

第六則 (明治六年第二十五号布告鳥獸獵規則ヲ以テ廢ス故ニ之ヲ略ス)

第七則

一銃砲彈藥下々ニ於テ猥リニ製造不相成候尤モ新ニ奇巧便利ヲ發明
シ爲試製作致度者ハ其管廳へ相願管轄鎮臺へ届出免許ヲ可受事
但製作其宜キニ適ヒ最モ便利ナル者ハ鎮臺ヨリ武庫司へ差送り
檢査ヲ遂ケ採用可相成分ハ西洋免許ノ法ニ倣ヒ何分ノ御沙汰可
有之事

是迄砲銃並彈藥類賣買致來候者ハ現今所持ノ物品員數等無遺漏書記
シ管轄廳へ爲指出其廳ヨリ東京武庫司へ可差出事
但東京大坂ノ儀ハ賣買ノ者ヨリ直ニ武庫司へ可届出事
右之通ニ候事

▲明治五年九月廿三日第二百八十二號布告ヲ以テ左ノ通リ罰例ヲ定ム
銃砲取締規則ニ違ヒ銃砲彈藥類ヲ竊ニ所持シ且致取扱候者有之節ハ

各地方ニ於テ其品取上ケ更ニ五十錢ノ過料可申付候事
但取締向ニ關係無之者見當リ訴出候ニ於テハ犯人過料ノ半金ヲ可
被下候事

▲明治七年十二月八日第三百三十二號布告ヲ以テ左ノ通リ罰例ヲ増補ス
一免許ヲ得スシテ銃砲彈藥ヲ製造スル者ハ其品取上ケ更ニ三圓以內
ノ過料可申付事

但書同前

▲明治八年六月廿八日第百一十一號達
今般銃砲彈藥取締ノ儀內務省へ管理被仰付候ニ付テハ追テ相達候儀
モ可有之候得共差向キ從前規則ノ通り相心得取締可致尤モ右規則中
是ニテ陸軍省及ヒ各鎮臺等へ申出候分ハ總テ內務省へ可申出其他管
理替ニ付牒觸ノ箇條ハ廢シ候儀ト可心得此旨相達候事
▲明治十三年三月廿五日第八號布告

明治五年(正月)第二十八號布告鐵砲取締規則第二則中左ノ一項增加候條此旨布告候事

一 免許商人ハ陸海軍準士官以上ノ武官ヨリ其所有ノ軍用銃並ニ其彈藥類ヲ買入レントスルキハ買入願書ニ其賣主ノ連書ヲ爲サシムヘキ事

▲明治十一年五月廿四日第十一號布告

銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室內射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥雷管ニ限リ賣買手續左ノ通り相定候條此旨布告候事

銃獵免許ノ者及ヒ有害ノ鳥獸威シ銃室內射的場營業免許ノ者等需用ノ彈藥ヲ買ハント欲スル時ハ其免狀若クハ免許証ヲ以テ彈藥賣

買免許商人ニ示シ以テ其免許人タルヲ証スヘシ

彈藥賣買免許商人ハ右ノ免狀若クハ免許証ヲ認メ正確ナリトスル時ハ左ノ程限ニ照ラシ之ヲ賣渡シ其姓名及ヒ數量等ヲ詳記シ月々

其管轄廳(東京ハ警視本署)ニ届出ツヘシ

西洋形獵銃用

彈藥 彈散バト
ロソノ類

二千發

同上用

雷管

四千粒

火繩銃用
威シ銃用

火藥

壹貫目

室內銃用

雷管

壹萬粒

右一次賣渡シ最多ノ程限トス若シ一次此程限外ノ彈藥雷管ヲ買ハント欲スル時ハ銃砲取締規則第二則ニ從フヘシ

○第十三章 石油取締規則

○明治十四年八月十三日第四十号布告(十六年二月十五日第六号布告ヲ以テ改正ス故ニ之ヲ削去シ

左ニ其改正規則ヲ掲載ス)

○明治十六年二月十五日第六号布告

(改正)石油取締規則

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗温器三十度(華氏八十六度)以上ノ温度ニ達セサレハ發焰セサルモノヲ第一種

トシ三十度ニ達セズシテ發焔スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サズ

第三條 石油營業者ヲ分テ礦業者精製者問屋及小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 石油ノ種類ハ内務卿ノ必要トスル地方ニ於テ検査員ヲシテ之ヲ検査セシムベシ
石油ハ検査済ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サズ但礦業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限ニアラス

第五條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以内第二種ノ石油五斗以内トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ

限ルベシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油并ニ検査未済ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ構造方ハ都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ認可ヲ受クベシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取り置キ一年間保存スベシ但販賣時限ハ日出ヨリ日没マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルキハ其石油タルヲ表記スヘシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條 此規則ヲ犯シタル者ハ貳圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
○第十四章 戒嚴令

○明治十五年八月五日第三十六号布告

戒嚴令

第一條 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地
方ヲ警戒スルヲ法トス

第二條 戒嚴ハ臨戰地境ト合圍ノ二種ニ分ツ

第一 臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ戒嚴スヘキ地方ヲ區畫シ
テ臨戰ノ區域ト爲スモノナリ

第二 合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒ス可
キ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ

第三條 戒嚴ハ時機ニ應シ其要スヘキ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス

第四條 戰時ニ際シ鎮臺營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等遽カニ
合圍若クハ攻撃ヲ受クル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルコ
ト得又戰略上臨機ノ處分ヲ要スルキハ出征ノ司令官之ヲ宣告スル

トヲ得

第五條 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其
地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フヘシ若シ時機切迫シテ通信斷
絶シ命ヲ請フノ道ナキハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得

第六條 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官或ハ艦隊司令長官
艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權
アル司令官トス

第七條 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタルキハ直チニ其狀勢及ヒ事由ヲ具シテ
之ヲ太政官ニ上申ス可シ

但シ其隸屬スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申スヘシ
第八條 戒嚴ノ宣告ハ彙ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區
畫ヲ改正スルコトヲ得

第九條 臨戰地境内ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關

係アル事ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速ニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フ可シ

第十條 合圍地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及ヒ檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速ニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フヘシ

第十一條 合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衙ニ於テ裁判ス

刑法

第二編

第一章 皇室ニ對スル罪

第二章 國事ニ關スル罪

第三章 靜謐ヲ害スル罪

第四章 信用ヲ害スル罪

第九章 官吏濫職ノ罪

第三編

第一章

第一節 謀殺故殺ノ罪

第二節 毆打創傷ノ罪

第六節 擅ニ人ヲ逮捕監禁スル罪

第七節 脅迫ノ罪

第二章

第二節 強盜ノ罪

第七節 放火失火ノ罪

第八節 決水ノ罪

第九節 船舶ヲ覆没スル罪

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

第十二條 合圍地境內ニ裁判所ナク又其管轄裁判所ト通路斷絶セシキハ刑ノ別ナク總テ軍衙ノ裁判ニ屬ス

第十三條 合圍地境內ニ於ケル軍衙ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ爲スヲ得ス

第十四條 戒嚴地境內ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但シ其執行ヨリ生スル損害ハ要償スルヲ得ス

第一 集會若クハ新聞紙雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムル者ヲ停止スル事

第二 軍需ニ供スヘキ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニ依リ其輸
出ヲ禁止スル事

第三 銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ該ル諸物品ヲ所有スル者アル

時ハ之ヲ檢査シ時機ニ依リ押收スル事

第四 郵便電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物品ヲ檢査シ並ニ陸海
通路ヲ停止スル事

第五 戰狀ニ依リ止ムヲ得サル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ
破壞燬燒スル事

第六 合圍地境內ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中
ニ立入り檢査スル事

第七 合圍地境內ニ寄宿スル者アルキハ時機ニ依リ其地ヲ退去セ
シムル事

第十五條 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クルノ
日マテハ其効力ヲ有スル者トス

第十六條 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政事務司法事務及ヒ裁判權ハ總
テ其常例ニ復ス

▲明治十五年八月五日第三十七號布告
凡シ法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ
定ムルモノトス

○第十五章徵發令

○明治十五年八月十二日第四十三號布告

徵發令

第一條 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一
部ヲ動スカニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スル
ノ法トス

但シ平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ准ス

第二條 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

- 一 陸軍卿海軍卿鎮臺司令官及ヒ鎮守府長官

- 二 陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ
行軍ノ軍隊長

- 三 海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長若
クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

第四條 徵發スヘキモノ、種類ニ依リ徵發區(會社モ之ニ准ス)ヲ定ム
ルヲ左ノ如シ

一 第十二條第一項ハ 府縣

二 第十二條第二項及ヒ第三項ハ 郡區

三 第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ 町村

四 船舶會社所有ノ船舶及ヒ鉄道會社所有ノ瀛車ハ 會社

第五條 徵發スヘキモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル

第六條 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場
長船舶會社ノ店長ニ付スベシ

○第十五章徵發令

第七條 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ定全セシムルノ責アリトス
第八條 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應スベキ便宜ノ方法ヲ豫定スベキモノトス

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ヲ違フキハ府知事縣令郡區長戸長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條 徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條 徵發スヘキモノ左ノ如シ

- 一 米麥秣糶鹽味噌醬油漬物梅干及ヒ薪炭
 - 二 乘馬駄馬駕馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具
 - 三 人夫
 - 四 宿舍廐圍及ヒ倉庫
 - 五 飲水石炭
 - 六 船舶
 - 七 鐵道漁車
 - 八 演習ニ要スル地所
 - 九 演習ニ要スル材料器具
- 第十三條 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲ケルモノ、外徵發スヘキモノ左ノ如シ但シ平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發スルコトヲ得ス
- 一 造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具

- 二 職工礦夫洗濯人ノ類
- 三 被服裝具艸鞋兵器彈藥船具寢具藥劑治療器械及ヒ綑帶具
- 四 水車搗舂ノ類
- 五 病院

第十四條 第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

- 一 皇族所用ノ車馬
- 二 外國公使館並ニ領事館ニ屬スル車馬
- 三 乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹
- 四 郵便用ノ車馬
- 五 公認セラル種牛種馬

第十五條 第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受クベキモノ左ノ如シ

- 一 公務ニ屬スル麻署
- 二 皇族ノ邸宅

- 三 外國公使館領事館及ヒ其所屬館
 - 四 鐵道電信郵便用ノ建造物
 - 五 陸海軍將校並ニ同等官現住ノ家屋
 - 六 博物館書籍館
 - 七 病院盲啞院棄兒院
 - 八 學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス
 - 九 製造場内機械室
- 第十六條 第十二條第二項ニ掲グルモノ、使用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス
- 第十七條 第十二條第二項ニ掲グルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルヲ得
- 第十八條 第十三條第四項ニ掲グルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居

住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條 宿舎ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條 第十二條第四項ニ掲グルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアルベシ

第二十一條 宿舎ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス廐園倉庫亦同シ

第二十二條 宿舎廐園ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給スヘシ但シ駐軍三日以上ニ至ルキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條 第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノ併ハセテ供給セシム

第二十四條 第十二條第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアルヘシ

第二十五條 第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ掲グルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用スルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徵用スルコトヲ得

第二十六條 第十二條第六項ニ掲グルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ解船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 第十二條第七項ニ屬スル瀛車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徵用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條 第十三條第五項ニ掲グルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徵用スルヲ例トス但合圍地境內ニ在テハ全ク明渡サシムルコトヲ得

○第十五章戒嚴令

第二十九條 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條 徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條 賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞ノ三ヶ月ヲ越ユルキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條 賠償ハ徵發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條 徵發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルキハ評價委員ノ評定ニ任ス其毀損ハ持主若クハ採業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ區戶長ニ届出ヘシ其届出ハ徵用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラ

ス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限内持主若クハ採業者ニ於テ使用セシキハ無効トス

一 西洋形船舶 七日間

二 地所 評價委員ノ告示スル時日間

三 其他ノ物件 一日間

第三十四條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ヶ年間ノ平均價ヲ取り之ヲ定ム其平均價ノ取り難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト採業者トヲ各個ニ分別シテ徵用シタルキハ其郡區平常ノ賃賃及ヒ借賃ニ准シテ賠償ス

第三十六條 第十二條第二項ノ徵發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルキハ第三十二條ノ例ニ

係ハラス賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但シ此ノ場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條 第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上ルルキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ預定ヲ要スルキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ付キ供給者ト熟議調和セサルキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條 第十二條第三項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ准シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條 第十二條第四項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條 第十二條第五項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス
第四十一條 第十二條第六項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外左ノ區別ニ從フ

一 出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二 定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルキハ其乗載量五分ノ

三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ准ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三 出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセザルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルキハ評價委員ノ評定額

第四十二條 第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航船賃費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ヶ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條 第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但シ船橋及ヒ解船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ准ス

第四十四條 第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條 第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ採業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代償若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條 第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルキニ限り賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條 第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代償若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條 第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代償若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條 第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條 第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルキハ第三十九條ノ例ニ准ス

第五十一條 徵發ヲ拒ミ或ハ忌避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ貳十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ貳十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルキハ一年以上四年以下ノ輕

禁錮ニ處シ將校ハ劊官ヲ附加ス

○第十六章

○明治十五年十二月十八日第貳拾六號布達

徵發事務條例

第一條 徵發事務條例ハ徵發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條 陸軍若クハ海軍官憲ハ徵發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量

シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徵發書ヲ出ス可シ

第三條 徵發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ

際シテハ電信ヲ以テ徵發スルコトヲ得

第四條 徵發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ掲クル特命司令官軍團

長師團長艦隊司令長官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊

司令官ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル特命司令官軍團長師團長旅

團長分遣隊長第三項中ニ掲クル特命司令官艦隊司令長官艦隊司令

官分遣艦長ハ其獨立中ニ限り徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長

艦隊司令官ト雖モ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ

徵發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令長官ノミ之ヲ有ス

第六條 徵發令第三條第二項中ニ掲クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ

諸團隊ヲ統フル長士官以上トハ第三項中ニ掲クル探練及ヒ航海ノ艦

隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長トハ先任艦長又ハ獨立艦

長ト言フモノニシテ其長メニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習

若クハ海軍探練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖モ其部下ノ團隊若ク

ハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限り其團隊長若ク

ハ艦長各自ニ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

第七條 徵發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之

ヲ使用ス可シ

○第十六章徵發事務條例

第八條 徵發物件其徵發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戶長及ヒ証人二人 其町村内ニ住スル親物品營業者ノ内ヨリ立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ 戶長ノ撰定スルモノ

第九條 徵發ヲ課セラレタルモノハ徵發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セザルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徵發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條 徵發書ハ徵發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖也臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハザル場合ニ於テハ徵發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徵發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徵發書ヲ用ヒス本人ニ受領証票ヲ交付スルニ止ル 本條ノ場合ニ於テハ徵發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區戶長若クハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ 第十一條 徵發ノ命令ヲ受ケタルモノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條 徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ 町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ陸海軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ

検査セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條 府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條 府知事縣令郡區長及ヒ戸長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條 徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ理由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條 徵發令第十一條ニ掲グル受領証票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

第十七條 受領証票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ領收ノ際直ニ之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後之ヲ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十二條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ掲グルモノヲ除クノ外當初領收ノ際假受領証ヲ交付ス可シ

第十八條 徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ掲グルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ并ニ同令第二十條第六項ニ掲グルモノ船及ヒ船橋ヲ除クトシテ徵用スルトキハ特ニ本人若クハ操業者ニ受領証票ヲ交付スルコトアル可シ

第十九條 徵用十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領証票ヲ交付ス可シ

第二十條 徵發令第十二條第一項ニ掲クルモノ、徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セザルトキニ限り他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陥ヒテザラシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣内ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二 他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三 秣藁ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條 郡區長ハ附錄第三號雛形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限リ之ヲ陸軍省ニ送付ス可シ

第二十二條 郡區長ハ徵發物件表ノ副本ヲ其役所ニ備ヘ戶長ハ町村ニ係ル書類ヲ其役場ニ備ヘ置キ物産ヲ除クノ外増減ヲ記シ供給ノ便宜ニ供ス可シ

第二十三條 徵發物件表ハ左ノ諸項ニ照シ調製ス可シ

- 一 馬匹車輛ハ其郡区内ニ於テ登時實用ヲ爲スモノ
- 二 人夫ハ其郡区内ニ於テ負擔ニ係ル業体ヲ爲スモノニシテ年齢十七歳ヨリ六十歳迄ノモノ
- 三 廐園倉庫ハ貸廐貸庫ニ限ル
- 四 職工ハ總數ヲ表中ニ掲ケ備考中ニ就キ其業体ヲ分チ記ス可シ
- 五 官廨社寺學校屠場水車場ノ坪數ハ調査ニ及ハス
- 六 物産中米麥等ノ如キハ其高ヲ記ス可シ
- 七 郵便局アル町村ニハ○其爲替局ハ◎電信分局ハ④其線路ハ①鐵道ハ一ノ符號ヲ記ス可シ

第二十四條 府知事縣令ハ郡區長ヨリ受ケタル徵發物件表ニ照シ附錄第四號雛形ニ依リ其管下ニ係ル徵發物件概覽表ヲ製シ各郡區徵發物件表ト共ニ陸軍省ニ送付ス可シ

第二十五條 戶長ハ附錄第五號雛形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ船舶表ヲ製シ郡區長ヲ經テ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限り之ヲ海軍省ニ送付ス可シ

第二十六條 徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ掲クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條 徵發令第十二條第六項ニ掲クル船舶中郵便船ニ限り其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條 徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寐

所及ヒ庖廚ヲ指シ營業ニ必要ナル場所トハ商估ノ店舗農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貸座敷等ヲ包含ス

第二十九條 宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖ハ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

一 廨署 陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若シハ家屋

二 將官其參謀部ト共ニ 一家屋

三 上長官又ハ同等軍屬一名 一室

四 士官又ハ同等軍屬二名 一室

五 下士又ハ同等軍屬一名 一疊半乃至二疊

六 卒又ハ同等軍屬一名 一疊乃至一疊半

七 徵發ニ應シタル人員三名 二疊

第三十條 戶長ハ陸海軍ノ宿劄主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條 徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サスト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戶長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ掲グル日限ヲ更新スルモノニアラズ

第三十二條 徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給ス可キ食飼ノ定量大率ヲ左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以內ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人 精米每食二合 朝夕飯一汁一菜漬物 午飯一菜漬物
二馬 駐軍中 朝大麥二升秣藪五百目 喰藪百五十目 晝秣藪五百目 喰藪百五十目 夕大麥二升秣藪五百目 喰藪二百目
演習及ヒ行軍中 朝大麥二升秣藪五百目 晝大麥一升 夕

大麥二升秣藪一貫目 喰藪五百目

小麥ヲ大麥ニ喰藪ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝小麥一升 喰藪一貫目 晝小麥五合 夕小麥一升五合 喰藪二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藪ヲ秣藪ニ代用スルトキ 朝搗麥又ハ裸麥一升 喰藪一貫目 晝搗麥又ハ裸麥一升 夕搗麥又ハ裸麥二升 喰藪一貫目

寢藪ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若シハ火鉢薪炭共ニ每室ニ一個ヲ給ス可シ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條 寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス 徵發例第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ 公有家屋社 寺亦同シ 食飼ニ供ス

可キ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ証アルトキハ戶長ニ於テ賄ノ受負ヲ立ツル歟若シハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ准ス可シ

第三十六條 町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戶長ニ於テ其物品ヲ供ス可シ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ准シテ處分ス可シ

第三十七條 會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ証明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引キ立ツ可シ

第三十八條 食飼ノ定賃ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ム可シ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但府縣ヲ以テ徵發區ト爲スモノ、差出場所ハ賦課セラレタル郡區ニ一個所若クハ二箇所ヲ設ク可シ
差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス

第四十條 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トス可ベキモノトス

第四十一條 郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ像テ隣郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條 賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條 府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交

○第十六章徵發事務條例

付ノ受領証票ヲ添へ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第三十六條及ヒ第三十八條ニ掲クルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條 徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領証票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若クハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ違算若クハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス
第四十五條 徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノハ終日若クハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス
若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス

可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條 徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ届出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ届出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戶長ニ届出可キモノトス

第四十七條 毀損ノ届出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ戶長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作リ供給者ノ請求金額ア其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況并ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ
第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラズ但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄

難免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雛形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ

賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ

食飼ノ定量ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償スヘシ
第五十三條 徵發令第四十二條中航泊實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航泊中現ニ消耗シタルモノ、代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算スヘキモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ採業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セズ但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ採業者ト分別ノ徵用シタルキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村評價ヲ爲ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモ若シ熟達シタルモノナキトキハ他二名若クハ四町村ノ住民ヲ用ユルモ妨ケナシ
名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス
鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所

ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及
ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ撰用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニ
シテ地方吏員若クハ戸長ニ於テ撰舉ス可キモノトス

其撰舉セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其撰舉セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣
會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戸長ノ派出ヲ要スルト
キハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ
戸長ニ通達ス可シ

第五十九條 評價ノ方法ハ評價ス可キモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査
シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク
演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ

查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審コシ相當ナルトキハ
直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認め
ルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價
明細書ヲ製ス可シ

- 一 評價ノ事項及ヒ事由
- 二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ
 何圖面何書類ニ依リタル金
 額ノ算出ハ如何ナル方法ニ依リタルヤ
 其又ハ實測シタル金
 年平均ノ賠償金額ヲ定メタル歟
 其前年ノ平均賠償額ニ依リタル
 其幾分ニ係ル賠償金額ヲ定メタル歟
 其前年ノ平均賠償額ニ依リタル
 シタル植物ノ生熟ノ度ニ從ヒ其平均
 收穫量ニ應ジタル賠償額算出
 キ金額中ヨリ幾分ノ收穫間賃及ヒ肥料
 收穫量ニ應ジタル賠償額算出
 ノ草木ニシテ毎年收穫アルモノノ
 收穫間賃及ヒ肥料收穫量ニ應ジタル
 賠償額算出
 害ノ収獲ヲ見込ミ賠償額算出
 分ノ収獲ヲ見込ミ賠償額算出
 金額ヲ定メタル歟ノ類

第六十條 評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若シハ戶長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若シハ戶長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄 第一號ノ一

徵發書

一 宿舍 廨署用 士官幾人

將官幾人
下士幾人

上長官幾人
兵卒幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一 庭園

幾四分

右、、、

一 倉庫

幾坪

右、、、

一 艀船

幾艘

右、、、

一 何々

右、、、

前書ノ通徵用候條其町(村)ニ於テ遲滯ナク供給可致事

年 月 日

何々長

官姓名印

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戶長役場宛

備考 徵發書ノ料紙ハ美濃野紙タル可シ

附錄 第一號ノ二

徵發書

一人夫

幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徵用
幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徵用

一 馱馬

幾匹馬士共

右内

幾匹、
幾匹、

一 何々

右内

何、
何、

一 何々

右内

何、
何、

前書ノ通徵用候條其郡(區)ニ於テ遲滞ナク供給可致事

年 月 日

何々長

官姓名印

某府(縣)

某郡(區)役所宛

附錄 第一號ノ三甲

徵發書

一 漁船

船名

一 西洋形風帆船

船名

右某月某日ヨリ借切徵發候條某港ニ於テ遲滞ナク供給可致事

年 月 日

何々長

官姓名印

某會社某地店長宛

附錄 第一號ノ三乙

○第十六章 徵發事務條例

徵發書

一將校並同等官

幾名

一下士卒並同等

幾名

一馬

幾匹

一車

幾輛

一荷物畧計

幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ徵用シ又ハ某社所有ノ何號船ヲ徵用シ某月某日某港出帆(某港ニ運送爲致候條遲滞ナク供給可致事

年月日

何々長

官姓名印

某會社某地店長宛

附錄 第一號ノ四

徵發書

一上等

幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄

一中等

幾名内、、、

一下等

幾名内、、、

一馬

幾匹内幾匹ハ某地迄餘ハ某地迄

一車

幾輛内幾輛ハ、、、

一荷物畧計

幾噸内幾噸ハ、、、

右ハ通常(特別)派車ヲ徵用シ某月某日時發車ヲ以テ某地ニ運送候條遲滞ナク供給可致事

年月日

何々長

官姓名印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄 第一號ノ五

徵發書

一玄米

幾百石

一精米

幾拾石

○第十六章徵發事務條例

一薪 幾貫目

一何々

一何々

右徵用候條某月某日限リ供給有之事

年月日

何々長

官姓名印

某府(縣)宛

附錄 第一號ノ六

徵發書

一某府(縣)某郡(區)某町(村)近傍

右某月某日演習ノ爲メ徵用候事

年月日

何々長

官姓名印

某町(村)戸長役場宛

附錄 第二號ノ一

受領証票

一宿舍 廨署用人 將官幾人 上長官幾人
士官幾人 下士幾人 兵卒 幾人

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄徵用

一庭園 幾匹分

右、、、 幾坪

一倉庫 幾艘

右、、、 幾艘

一解船 幾艘

右、、、

一何々

右、、、

前書ノ通徴用候也

年 月 日

何々長

官姓名印

某府(縣)某郡(區)

某町(村)戸長役場宛

備考 受領証票ハ總テ存留証票ノ式タル可シ

附錄 第二號ノ二

受領証票

一人夫

幾人

右内

幾人ハ某月某日時某地ニ差出シ某地迄徴用

幾人ハ某月某日時某所ニ差出シ幾日間徴用

一駄馬

幾匹馬士共

右内

幾匹

幾匹

一何々

右内

何々

一何々

右内

何々

前書ノ通徴用候也

年 月 日

何々長

官姓名印

某府(縣)

○第十六章徴發事務條例

某郡(區)役所宛

附錄 第二號ノ三甲

受領証票

一 漁船

船名

一 西洋形風帆船

船名

右ハ某月某日ヨリ某月某日迄借切徵用
前書ノ通徴用候也

年 月 日

何々長

官姓名印

某會社某地店長宛

附錄 第二號ノ三乙

受領証票

一 將校并同等官

幾名

一下士卒并同等

幾名

一 馬

幾匹

一 車

幾輛

一 荷物畧計

幾噸

右ハ某月某日某港出帆ノ何號船ヲ某月某日某港迄徴用
前書ノ通徴用候也

年 月 日

何々長

官姓名印

某會社某地店長宛

附錄 第二號ノ四

受領証票

一 上等

幾名内幾名ハ某地迄餘ハ某地迄

一 中等

幾名内、、、

○第十六章徴發事務條例

三百三十七

一下等

幾名内、

一馬

幾匹内幾匹、某地迄餘、某地迄

一車

幾輛内幾輛、

一荷物畧計

幾噸内幾噸、

右、某月某日時通常(特別)瀛車徵用

前書ノ通徵用候也

年月日

何々長

官姓名印

鐵道會社某地停車場長宛

附錄 第二號ノ五

受領証票

一玄米

幾百石

一精米

幾拾石

一薪

幾貫目

一何々

、

一何々

、

前書ノ通徵用候也

年月日

何々長

官姓名印

某府(縣)宛

附錄第五號ノ一西洋形船舶表

何町(村)戸長役場

船名	何丸	推進機	螺旋カ兩輪カ風帆カ
船主	何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地 何府(縣)華(士)族(平民) 何	寄留者ハ寄留 地方ヲ記ス	某
船長	何府(縣)何國何郡(區)何町(村)何番地 何府(縣)華(士)族(平民) 何	寄留者ハ寄留 地方ヲ記ス	某
製造ノ年 及地名	何年何月何所ニ於テ製造		
買入代價	何萬何千何百何十圓		
船質	木製カ鐵製カ		
長	量噸甲板上最大ノ長カ	何丈何尺何寸	
幅	内法リ最大ノ幅	同	
深	艙室ニ於テ量噸甲板ヨリ船底中央ノ内板ニ至ル深カ	同	
載貨噸水	船首 何尺何寸 船尾	何尺何寸	
登簿噸數	何千何百何十噸		

甲板數	何層	櫓數	何本	種類	帆「パーク」カ「フリグ」カ「スノーチル」カ
機關種類	横置カ 縦置カ 斜置カ 單機關カ 複機關カ 高壓カ 低壓カ	蒸罐ノ形狀 及ヒ員數	角カ圓カ何個カ		
馬力	名何千何百何十何馬力 實何千何百何十何馬力	炭庫容積	尋常速力 何晝夜分		
炭所料費	尋常速力一晝夜何百何拾何斤	走力	尋常速力(一時間)拾何里 全速力拾何里		
定繫場	何所	定航方	何所		
旗章		所屬ノ社名	何社		

○第十六章徵發事務條例

附錄 第五號ノ二

日本形船舶表

何町(村)戸長役場

五拾石以上商船		解漁船及海川小廻船	
石分	船數	船長	船數
五拾石以上	四、三、九、壹個	四間未滿	壹、八、三、貳個
百石以上	貳、九、〇、三、〇、八石	四間未滿	
貳百石以上		五間未滿	
貳百石未滿		五間未滿	
三百石以上		六間未滿	
三百石未滿		六間未滿	
四百石以上		七間未滿	
四百石未滿		七間未滿	
五百石以上		八間未滿	
五百石未滿		八間未滿	
六百石以上		九間未滿	
六百石未滿		九間未滿	
七百石以上		拾間未滿	
七百石未滿		拾間未滿	

八百石以上	拾、貳、間未滿
八百石未滿	拾、貳、間未滿
九百石以上	拾、三、間未滿
九百石未滿	拾、三、間未滿
千石以上	拾、四、間未滿
千石未滿	拾、四、間未滿
千貳百石以上	拾、五、間未滿
千貳百石未滿	拾、五、間未滿
千三百石以上	拾、六、間未滿
千三百石未滿	拾、六、間未滿
千四百石以上	拾、七、間未滿
千四百石未滿	拾、七、間未滿
千五百石以上	拾、八、間未滿
千五百石未滿	拾、八、間未滿
千六百石以上	拾、九、間未滿
千六百石未滿	拾、九、間未滿
千七百石以上	貳、拾、間未滿
千七百石未滿	貳、拾、間未滿
千八百石以上	
千八百石未滿	
千九百石以上	
千九百石未滿	
貳千石以上	

第十六章 徵發事務條例

附錄 第六號賠償金計算書

一 宿泊代 第何號證票 何拾何圓

一 廐園代 同上 何拾圓

一 馱馬何匹 同上 何圓

一 一人夫何人 第何號證票ノ内 何圓

一 六里外人夫何人 同上 三日 何圓

一 荷積大七車何輛 第何號證票 何圓

一 同大八車何輛 同上 何圓

一 同中車何輛同小車何輛 第何號證票ノ内 評 價

右七廉合計金何百何拾何圓賠償金トシテ御渡相成度候也

年 月 日

姓名印

府知事(縣令)郡區長(戶長)
停車場長(船舶會社店長)

何地何會計官

御中

附錄第七號

何郡(區)何市場

平均物價表

何府(縣)

種類	平均價	十二年	十三年	十四年	自十二年 至十四年 三箇年
玄米 壹石	七圓 三四六		二圓 一一	一〇圓 二〇四	九圓 五三〇
精米 壹石					
鹽 壹石					
味噌 壹貫目					
醬油 壹石					
漬物 四斗樽入 壹樽					
梅干 四斗樽入 壹樽					
麥 壹石					
秣 壹貫目					
薪 壹貫目					
炭 壹貫目					

○第十七章 衛生

○第一節 傳染病豫防規則

○明治十三年七月九日第三十四號布告

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺腸窒扶私赤痢實布埤利亞、發疹窒扶私及痘瘡ノ六病ヲ云フ

但シ六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルハ地方長官ハ内務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳(東京府下ハ府廳及ヒ警視本署)ニ届出ツヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直チニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ妨ケナシ

▲明治十三年十二月十四日第五十四号布告ヲ以テ左ノ一項ヲ增加ス

地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及治癒死亡ノ數ヲ内務省ニ申報スベシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルハ其性狀ヲ記シテ速カニ之ヲ内務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スベシ

但(明治十三年十二月十四日第五十四号布告ヲ以テ但書ヲ削除ス故ニ畧ス)

第四條 (明治十三年十二月十四日第五十四号布告ヲ以テ削除ス故ニ畧ス)

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルハ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施

行スベシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹、窒扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ、地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ、避病院ヲ要スベキト認ムルモ、内務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ、地方長官ノ許可ヲ請フ可シ

第七條 醫師並ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難シト認ムル者ハ、避病院ニ入ラシム可シ

第八條 掛リ官吏ハ、傳染病者アル家ニハ、其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ、要用ノ外他人ト交通ヲ絶タシムベシ

但シ患者治癒死亡又ハ、避病院ニ入りタル後、テ相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ、仍ホ本條ヲ遵守セシムベシ

▲明治十五年八月廿六日第四十七号布告

明治十三年(七月)第三十四号布告傳染病豫防規則第八條中病名票貼付

ノ儀當分ニテ施行セス

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ、其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ、燒棄若クハ埋却セシム可シ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ、其埋葬地ヲ區劃シ、濫リニ雜葬セシムヘカラス、且他ニ改葬スルヲ許サス

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ、其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具、衣服器具及ヒ病室、船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレハ、再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ、井泉、河流、水道、及ヒ圃圃、芥溜、下水、溝渠等、總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ、掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルモ、船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査シ、患者若クハ死者アルモ、此規則ニ從フテ處分

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛烈ナルハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員ト爲シ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルヲ得

▲明治十五年九月一日第四十八号布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス
此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備スル病ヲ診斷スルハ總テ檢疫委員ニ届出ツヘシ但シ本項施行ノ終始ハ地方應ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得

▲明治十四年十月七日第五十八号布告ヲ以テ左ノ一項ヲ追加ス
虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサル様遮斷シ得ヘキモノト見認ムルハ地

方官ヨリ内務卿ニ稟議シ交通ヲ絶タシムルノ處分ヲ爲スヲ得
但要用ノ者ハ掛官吏檢察ノ上交通ヲ許スヲ得

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ
實布埜里亞病

第十八條 實布埜里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 (明治十三年十二月十四日第五十四号布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

發疹室扶私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニ

ハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 (明治十五年九月一日第四十八号布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

痘瘡病者アルキハ第十條第十一條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ

罰則

第二十二條 醫師衛生委員此ノ規則ニ違背シタルキハ五十圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルキハ百圓

以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルキハ壹圓五十錢以内ノ料料ニ處ス

○第二節 檢疫停船規則

○明治十二年七月二十一日第二十九号布告

檢疫停船規則

第一條 日本政府ハ虎列刺病ノ蔓延ヲ防カンカ爲メ茲ニ左ニ掲ケル規則ヲ開港場ニ施行スルヲ布告ス而シテ更ニ其施行ノ停止ヲ令スル迄ハ之ヲ實施スルモノトス

第二條 (明治十二年七月三十一日第三十号布告ヲ以テ左ノ如ク改正) 中央衛生會ニテ決スル處ノ開港場ニ官吏及ヒ至當ノ教育ヲ受ケ能ク職任ニ堪ユヘキ日本又ハ外國醫士化學士及ヒ相當ノ助役ヲ以テ地方檢疫局ヲ設置スベシ而シテ其局員ノ數ハ其港入船ノ多寡ニ應ジテ増減アルベシト雖モ檢疫一切ノ事務ヲ速ニ整理スルニ差支ナ

○第十七章衛生○第二節檢疫停船規則

キヲ以テ足レリトスベシ

都テ此地方檢疫局ハ中央衛生會ノ管轄ニ屬スヘシ

第三條 政府ハ檢疫停船規則ヲ施行スル各開港場ニ於テ停船場ヲ定メ且虎列刺患者ヲ容ルヘキ病院並ニ該病ノ疑アル患者ヲ容ルヘキ病院ヲ建設シ且遺骸ヲ處置スヘキ地消毒法ヲ施行スヘキ場所並ニ停留セラレタル人ノ爲メ都テ必需ノ具ヲ備ヘタル屋舎ヲ設置スヘシ

第四條 檢疫信號旗ヲ掲ケタル番船ヲ各港口ノ近傍ニ置キ各船入港ノ前検査ノ爲メ之ヲ停止シ地方檢疫局ノ人員少ナクモ二名ヲ派出シテ之ヲ検査スヘシ但シ右局員ノ内一名ハ必ス醫士タルヘシ而シテ船長醫士或ハ船内ノ人ハ誰ニテモ檢疫官吏ノ尋問ニ對シ都テ之ニ應答シ又所定ノ式紙ニ事項ヲ記入シ其氏名ヲ記シタル明告書ニ調印シテ差出ヘシ（圈点ヲ施シタル數字ハ明治十二年七月三十一日第三十号布告ヲ以テ改正シタルモノニ係ル）船長ハ檢疫官吏ノ求ニ應シ船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ

船ハ航海中船客又ハ乗組人ニテ占居シタルキ又ハ他ノ事故ニ依テ病毒ニ感染シタル恐レアルキハ其検査ヲ受クヘシ

檢疫官吏ハ該船ノ航海日記ヲ査閲シ乗組人及ヒ船客ノ人名錄ヲ船内現在ノ人員ト引合ハスヲ得ヘシ

第五條 (明治十二年七月三十一日第三十号布告ヲ以テ第一項及ヒ第二項共左ノ如ク改正ス)

虎列刺病流行セサル港又ハ其疑ナキ港ヨリ來航スル船ノ船長ハ明告書及ヒ其他ノ手續ヲ以テ該船有病ノ港又ハ其疑アル港ニ立寄ラズ又有病ノ船舶若クハ其疑アルモノト直チニ交通セス且航海中眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲモ船内ニ發セシモノ無キ旨ヲ証明シテ檢疫官吏ヲ満足セシムルキハ該船ハ直チニ入港スルヲ得ヘシ
軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ニテ調印セル書面ヲ以テ前條ノ趣ヲ明告スル迄ニテ足レリトスヘシ而シテ該船ハ検査ヲ經ス入港スルヲ得ヘシ

シト雖モ若シ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ檢疫停船規則ニ從フヘシ
 第六條 船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ニ罹リタル者ナシト雖モ
 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルカ又ハ其航海中直ニ有病ノ船若
 クハ其疑アルモノト交通シタル船舶及ヒ船内ノ人員ハ其港ヨリ出
 帆ノ日又ハ有病若クハ其疑アル船ト交通ノ日ヨリ起算シテ七日ノ
 期滿ツル迄ハ停留セシムヘシ但地方檢疫局ニ於テ右ノ時間ヲ短縮
 スルモ差支ナキヲ認ムルキハ此限ニアラス
 右七日ノ期該船來着ノ上又ハ其前既ニ過キ去ルキハ消毒法ヲ行ヒ
 シ上速カニ船客ノ上陸ヲ許スベシ
 一般ノ積荷ハ消毒法ヲ施スニ及ハス自餘ノ物品ハ檢疫官吏ノ見込
 マテ消毒法ヲ行ヒ或ハ行ハサルヘシト雖モ爛布古衣夜具ハ勿論
 其他檢疫官吏ニ於テ殊ニ危険ナリト見込ム者ハ消毒法ヲ行フベシ
 消毒法ヲ行ヒタル物品ハ速カニ陸揚スルヲ得ヘシト雖モ消毒法

ヲ行ハサル物品ハ停船ノ定期滿ル迄陸揚スヘカラス若シ停船中眞
 性虎列刺及ヒ疑似症ヲ發スルキハ其船及ヒ人員物品ハ都テ第八條
 第九條ニ從ヒ處分スベシ

第七條 (明治十二年七月三十一日第三十号布告ヲ以テ左ノ如ク改ム)
 有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ル軍艦ハ其艦長及ヒ醫官ヨリ書面
 マテ該艦來港前七日以内艦内ノ者有病ノ港或ハ其疑アル港ニ上
 陸セシトナク又ハ病毒感染ノ恐れナク且ツ航海中艦内ニ眞性虎列
 刺病又ハ疑似症ヲ發セシトナキ旨ヲ明告スルキハ直ニ入港スルヲ
 得ヘシ右ノ書面ヲ差出サ、ルキハ該艦ハ檢疫停船規則ニ從ハシムヘシ
 第八條 船舶來港ノ上其船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル
 者アルキハ檢疫官吏ニテ指示シタル停船場ニ移シテ要用ノ消毒法
 マ行ヒシ日ヨリ起算シテ七日ノ間停船セシムヘシ
 ▲明治十二年七月三十一日第三十号布告ヲ以テ第二項左ノ如ク改ム

船舶來港前病毒消滅シ而シテ檢疫官吏ノ満足スヘキ方法ヲ以テ消毒法ヲ施行セル上ハ地方檢疫局ニ於テ可トスル程停船ノ時間ヲ短縮シ得ベシ

▲明治十二年七月三十一日第三十号布告ヲ以テ第三項左ノ如ク改ム消毒法施行後停船中眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スル者アルキハ地方檢疫局ノ必要ト考斷スル程消毒法ヲ反復施行シ其施行ノ時ヨリ起算シテ尙三日間停船セシムヘシ但最初定メタル時限猶三日以上アルキハ最初定メタル時限ニ達スル迄停船セシムベシ患者及ヒ死者ノ遺骸ハ第九條ニ從ヒ處置スベシ

第九條 前條ニ記スルカ如キ船舶ノ來着スルニ方リ其乗組ノ患者未ダ癒ニサレハ其容体ニ依リ之ヲ避病院ニ移シ若シ已ニ死シテ遺骸ノ處置未ダ濟マサルキハ其爲メニ設ケタル場所ニ於テ火葬スルカ又ハ其關係アル者ノ望ミニ任セテ十分消毒法ヲ行ヒシ後埋葬スヘシ

シ患者及ヒ遺骸ヲ船中ヨリ他ニ移シタル後夜具衣類其他ノ物品及ヒ船内何レノ部分ニテモ病毒感染ノ恐アル者ハ地方檢疫局ニ於テ指示セル如ク十分ニ消毒法ヲ施スヘシ而シテ消毒法ヲ施ス爲メ要用ノ人ト船中ヲ取締ル可キ人トノ外都テ船内ノ人員ハ其人ノ爲ニ特ニ設クル所ノ家屋ニ移シ消毒法ヲ行フヘシ船内ニ残りタル人員ハ船内ニテ消毒法ヲ受タルカ又ハ交代シテ陸上ニアル適當ノ家屋ニ於テ之ヲ受クベシ

第十條 有病ノ港或ハ其疑アル港ヨリ出帆シ途中ノ港ヲ經ルト雖モ其港ニ於テ檢疫處置ヲ受ケサル船舶ハ直チニ有病ノ港又ハ其疑アル港ヨリ來ルモノト認メ處置スベシ

第十一條 (明治十二年七月三十一日第三十號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス) 定期郵便ヲ運搬スル諸船ハ着港ノ上速ニ其郵便物ヲ運送スルコトヲ得

ヘシ而シテ政府ハ右ノ郵便物ヲ運送配達ノ爲メ至當ノ方法ヲ設クベシ

第十二條 病院ニ入ル患者ハ治療及ヒ必要品ヲ受クルヲ得ベシ

病院又ハ停泊ノ船内ニ在ル患者ヲ尋訪セント欲スル人ハ地方檢疫局ニ於テ定メタル方法ニ從フヘシ

避病院ニ關係ナキモ醫業ニ達シタル醫士ハ患者又ハ其代理人ノ請ニ由テ診察協議スルヲ得ヘシ

患者ハ醫士ヨリ退院ヲ許ス迄ハ病院ヲ退去スルヲ得ス

第十三條 船中ニ於テ眞症虎列刺病若クハ疑似症ヲ發スルヲナキキハ停留セラレタル人ヲ船中ニ停メ置クヲ得ヘシ又ハ地方檢疫局ニ於テ衛生上ノ見込ニ從ヒ特ニ陸地ニ設ケアル避病ノ場所ニ移サ

ルハコアルベシ

第十四條 (明治十二年七月三十一日第三十號布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

檢疫停船規則施行ノ港ニ來着スル船舶ニ於テ檢疫官吏之ヲ虎列刺病ノ原因ナラント思考スル疑似ノ病徴ヲ發スル者アルキハ其患者ハ病院ノ別室ニ移シ船ハ醫士ニ於テ其病症ヲ診斷スルニ充分ノ時間ヲ終ル迄停留セシムベシ但其時間ハ四十八時ニ過クヘカラス而シテ地方檢疫局ハ醫士ノ報告ニ依リテ該規則ノ内其場合ニ適スル條款ヲ實施スヘシ

第十五條 有病ノ港又ハ其疑アル港ヲ發シ船用品或ハ荷物積込ノ爲メニ途中檢疫所ノ設ケアル無病ノ一港ニ立寄タル船舶ハ豫メ檢疫官吏ノ検査ヲ經且ツ必要ト認メタル消毒法ヲ行ヒ船用品或ハ貨物ヲ積入ル、毎ニ地方檢疫局ヨリ指示スル方法ニ從フ可シ

又該船内ニ眞性虎列刺病若クハ疑似症ヲ發シタルキハ該船又ハ其乗込人及ヒ物品ヲ處置スルハ第八條第九條ニ準スヘシ但シ該船内ヨリ上陸スル者アルキハ他船ニテ到着シタル人ニ行フヘキ同一ノ

處置ヲ爲スヘシ

第十六條 船舶ノ検査ハ其來着後成ルヘク速カニ施行スヘシ若シ來着後十二時間ヲ過キテ検査ヲ爲サルキハ入港スルヲ得ヘシ但シ其遲延天氣惡キカ爲メカ又ハ避ケ難キ事情アルカ爲メカ又ハ船長若クハ該船ニ關係アル人ノ所行或ハ詐偽ニ出ツルカノキハ此限ニ在ラス其場合ニ於テハ其遲延シタルノ事故終リタルキ検査ヲ爲スヘシ

第十七條 地方檢疫局ヨリ指圖シタル消毒法ハ檢疫官吏之ヲ施行シ其船ノ士官及ヒ船員之ヲ補助スヘシ但消毒法ハ之ヲ命シタル時ヨリ成ルヘク二十四時ニ完了シ而シテ其入費ハ船主又ハ其責アル者ヨリ辨償スヘシ

第十八條 檢疫停船規則ヲ施行スル港内ニ碇泊中船内ニ眞性虎列刺病又ハ疑似症ヲ發シタル船舶ハ直ニ第八條第九條ノ規則ニ從フヘシ

▲明治十二年七月三十一日第三十号布告ヲ以テ第二項ノ全文左ノ通

リ改正セラル

然リト雖モ若シ其船既ニ本港ニ於テ停留ヲ經タルキハ檢疫官ハ地方檢疫局ニテ必要ト考斷スル丈ケノミノ消毒及ヒ検査ノ方法ヲ反復施行スヘシ

第十九條 (明治十二年七月三十一日第三十号布告ヲ以テ左ノ如ク改正ス)

虎列刺病既ニ流行スル港内ニ來着スル船舶検査消毒法患者及ヒ死者ノ處置ヲ爲スハ前記ノ規則ニ從ハシムヘシ右ヲ施行スル爲メノ豫備ハ政府ニ於テ爲スヘシト雖モ船及人員停留ノ規則ハ休止スヘシ

第二十條 第六條第八條及ヒ第九條ニ記スル船舶ノ景狀地方檢疫局ニ於テ特ニ公衆ノ健康ニ危險ナリト思慮シ非常ノ處置ヲ必要トスルキハ此規則外ニ豫防ノ嚴制ヲ施スコトヲ得ヘシ其場合ニ當リテ地方檢疫局ハ直ニ中央衛生會ニ臨時ノ報告書ヲ差出スヘシ而シテ右

報告書ノ寫ハ請求ニ依リテ地方檢疫局ヨリ之ヲ該船ノ船長船主又ハ其用達ニ付與スヘシ

第二十一條 検査中又ハ停留中ノ船舶又ハ停留人ノ寓所ニハ凡ソ何人ヲ問ハス地方檢疫局ノ許可ナクシテ往クヲ許サス

第二十二條 前條ノ規則ヲ施行スルニ就テ其人ニ係ル所ノ食料醫藥其他欠クヘカラサル費用ハ其本人又ハ代理人ヨリ辨償スヘシ

第二十三條 此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ム者ハ犯ス毎ニ貳百圓以內ノ罰金ヲ科スヘシ若シ其船長船主若クハ其船ノ用達又ハ其各人若クハ一人ノ命令又ハ利益ノ爲メ此規則ニ背キ或ハ從フヲ拒ム

キハ每犯罰金五百圓ニ至ルマテ増加スルコトアルヘシ

此規則ニ就テ拂フヘキ費用ヲ辨償セサルモノアルキハ民事ノ訴訟ヲ以テ之ヲ要求スヘシ

但シ罰金ハ科セサルベシ

此規則ヲ犯シ停留場ヲ脱去スル者ハ(船又ハ人)罰金ヲ科シ且即時停留場ニ返ラシムヘシ

○第三節 虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

○明治十五年六月二十三日第三十一号布告

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ検査ヲ受ケ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後チニアラサレハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スヘカラス

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫官直チニ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スノ許可ヲ與フヘシ

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルキハ檢疫官其船舶

○第十七章衛生○第三節虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則 三百六十七

陸地及ヒ他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシムヘシ

該病患者ハ之ヲ避病院若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致スヘシ其死者ハ(若シ縁故人ノ望アルトキハ其望ニ從ヒ)地方官所定ノ場所ニ火葬シ若シハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後チ之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後チ上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及ヒ傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後チ其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷ヲ陸揚ケスルノ許可ヲ與フヘシ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日并ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指

定スヘシ

(増) 明治十六年六月十四日内務省丙第三号達

昨十五年太政官第三十一号布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則第五條ニ據リ該規則施行之義當省ヨリ相達候節内外國船舶トモ検査ノ義ハ左ノ手續書ニ據リ可取扱此旨相達候事

虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査手續

一 船舶入港スルキハ檢疫官少クモ二名速ニ其船舶ニ到リ(外國船ニ到ルキハ英語通辯者一名ヲ伴ヒ且檢疫官タルノ証^甲号書式ニ據ルベキモノトスヘ)ヲ船長ニ示シタル後(虎列刺病流行地方ヨリ來レルヤ否ヲ問ヒ該地方ヨリ來レルモノハ其航海中ニ虎列刺病患者若クハ同病ニ罹リシ死屍アラサルヤ否ヲ尋問スベシ若シ必要ト認ムルキハ自ラ船内ヲ巡檢スベシ)

一 船舶航海中ニ於テ船内ニ虎列刺病患者若クハ其死屍ナキヲ信認

スルルハ(外國形船舶ノ多人數旅客ヲ搭載スルモノハ船長ニ要求シテ其船中ノ健康ヲ證明スル書面ヲ出サシメ)直チニ規則第二條ニ據リ許可ノ証乙号書式ニ據ルベシヲ船長ニ與フヘシ其患者若クハ死屍アルルハ規則第三條ニ據リ之ヲ處置シ先ツ乗組人船客ノ上陸ヲ許可スルノ証丙号書式前段ヲ船長ニ與ヘ次ニ船舶積荷ノ消毒法全ク終リタル上ハ本條末項ニ據リ進航交通等ヲ許可スルノ証丙號書式後段ヲ速ニ船長ニ與フベシ(但内海ノ諸港ヲ往復スル内國小蒸氣船及ヒ日本形小船等ノ如キハ別ニ簡易ノ検査手續ヲ設ケ之ニ與フル証書ハ必スシモ乙號丙號ノ書式ニ據ラス簡畧ノ証書式ヲ用ルモ苦シカラス一内外國軍艦モ亦検査ノ手續ヲ爲スベシト雖ヒ艦長及醫官ニ於テ其航海中ニ虎列刺病患者若クハ其死屍ナキコトヲ證明スルルハ其証明書ヲ要求スルニ止メ其患者若クハ死屍アルルハ艦長及ヒ醫官ト協議ヲ遂ケ規則ニ準據シテ相當ノ處置ヲ爲スベシ規則第二條及第三

條許可ノ証ハ共ニ交付スルニ及ハス
 一十五年第三十一號布告ノ全文ヲ英文ニ譯シ謄寫若クハ印刷シ置キ
 検査官外國船ニ到ルルハ之ヲ携ヘ行キ其船長ニ一部宛交付スベシ
 甲號証書式寸法堅大約六寸餘幅
 大約八寸餘用紙適宜
 表面

(某)港ニ到着スル船舶ノ船長ニ示ス

(某)府知事(又ハ警視總監)タル余ハ内務卿ノ命ニ依リ明治十五年六月廿三日附第卅壹号布告虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ヲ施行セシカ爲メ(何某)ニ命スルニ検査官タルノ任ヲ以テス該官ハ(某)港ニ到着スル諸船舶ノ虎列刺病流行地方ヨリ來リタルヤ否其航海中ニ於テ虎列刺病患者若クハ死屍アラヤルヤ否ヲ船長ニ尋問シ且其船内諸人ノ健康ヲ証明スル証書ヲ船長ニ要求シ必要ト認ムルルハ船内ヲ巡檢スルノ權ヲ有スル

モノナリ

大日本帝國

年月日 (某) 府知事 又ハ (警視總監) 位勳氏名印

裏面

表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スベシ

乙號証書式 寸法大約甲號ニ 同シ用紙適宜

表面

(某)港ニ到着セシ 瀛 風帆船 (某)號ノ船長ニ交付ス

瀛 風帆船 (某)號ハ虎列刺病流行地方ヨリ來ルルヲ以テ (某)港檢疫

官タル余等ハ明治十五年六月二十三日付第三十一號布告虎列

刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ニ據リ之ヲ検査セシニ其

航海中ニ於テ虎列刺病患者及ヒ其死屍ナキヲ信認スルヲ以

テ該規則第二條ニ據リ直チニ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ

他船ト交通シ及乗組人船客ノ上陸并ニ積荷ノ陸揚ヲ爲スヲ許可スルモノナリ

大日本帝國 (某) 府 縣下

年月日 (某) 港檢疫官

同

氏名印 氏名印

裏面

外國船ニ與フル者ハ表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スベシ

丙号証書式 寸法用紙トモ乙 号ニ全クスベシ

表面

(某)港ニ到着セシ 瀛 風帆船 (某)號ノ船長ニ交付ス

瀛 風帆船 (某)號ハ虎列刺病流行地方ヨリ來ルルヲ以テ (某)港檢疫

官タル余等ハ明治十五年六月廿三日附第三十一号布告虎列刺

病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ニ據リ之ヲ検査セシニ其航

○第十七章衛生 ○第三節虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則 三百七十三

海中ニ於テ虎列刺病患者幾人(又ハ死屍幾個)アリタルヲ以テ該規則第三條第一項第二項ニ據リ之ヲ處置乗シ組入船客ニ消毒法ヲ施行シ其上陸ヲ許可スルモノナリ(船舶積荷ニ消毒法ヲ施行シタル後與フヘキ證書ハ該規則以下ヲ該規則第三條ニ據リ悉ク之ヲ處置シ總テ消毒ヲ施行シ了リ該船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ積荷ヲ陸揚スルコトヲ許可スル者ナリ)ニ作ルベシ)

大日本帝國(某)府下
年 月 日 (某)港檢疫官

氏名印
同 氏名印

裏面

外國船ニ與フル者ハ表面ノ全文ヲ英文ニ譯シ之ヲ記載スベシ

○第十八章 船舶取締規則

○第一節 海上衝突豫防規則

○明治十三年七月十六日第三十五號布告

海上衝突豫防規則

總則

第一條 此規則中蒸氣船ト雖ヒ帆ニテ走リ蒸氣ヲ用ヒサル時ハ帆前船ト看做シ蒸氣ヲ用ユルトハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣氣ト心得ヘシ

燈火

第二條 各船日没ヨリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ハラヌ第三條第四條第五條第六條第七條第八條第九條第十條第十一條ニ記載スル燈火ヲ掲クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用フヘカラス

第三條 蒸氣船ハ航海中必ス左ノ燈火ヲ掲クヘシ

(甲)前櫓又ハ其前面ニ於テ船体上ニ二丈ヨリ低カラサル所ニ亮明ナル

○第十八章船舶取締規則○第一節海上衝突豫防規則

白燈一個ヲ掲クヘシ若シ船幅二丈ヲ超ルキハ船体上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ二十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ左右舷外ヘ十方位ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ニ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ五里(海里ニテ算ス以下之ニ倣ヘ)ノ距離ヨリ見ユベキモノヲ用フベシ

(乙)右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スベク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユベキモノヲ用フヘシ

(丙)左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ○此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二

里ノ距離ヨリ見ユベキモノヲ用フヘシ

(丁)右綠紅ノ舷燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出テタル屏風様ノ隔板ヲ其燈火ノ内側ニ當テ、裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見ヘク左舷燈ハ右舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル様ニナスヘシ

第四條 蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ兩舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ、縦ニ連掲シ獨走ノ蒸氣船ト區別スヘシ此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ掲クル白燈ト同製ナルヲ用ヒテ同所ニ掲クヘシ

第五條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク海底電信線ノ布置又ハ引揚ニ從事スル時及ヒ事變ノ爲メニ運用自由ヲ得サルキハ夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈二個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ニ掲クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ又晝間ハ直徑二尺ノ黑球三個ヲ前艦ノ

○第十八章船舶取締規則○第一節海上衝突豫防規則

前面ニ於テ其頭部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縦ニ連掲スヘシ

右黒球及ヒ燈火ハ近寄ル他船ニ於テ運用自由ヲ得スシテ航路ヲ避クル能ハサル船ノ信号ト看認ムヘシ

右ノ船全ク運行セザル時ハ船燈ヲ掲クベカラスト雖モ運行スレハ必ス之ヲ掲クヘシ

第六條 帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カルトノ差別ナク白燈ヲ除クノ外第三條ニ記載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈ヲ掲クヘカラス

第七條 小形船ニ於テ天氣ノ模様ニ依リ緑紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難キキハ緑燈ハ右舷ニ紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ様甲板ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ各船燈ヲ他船ヨリ

最モ見ヘ易キ様各舷ニ標スヘシ但此時綠燈ハ左舷ヨリ見ヘス紅燈ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

此綠紅ノ燈ヲ置違ヒナク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ綠色紅燈ノ燈籠ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且成規ノ隔板ヲ之ニ備ヘ置クベシ

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ船体上ヨリ二丈ヲ超ヘサル所ニ白燈一個ヲ掲クヘシ○此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ亮明ノ光ヲ發シ少クモ周回一里ノ距離ヨリ見ユル様ニ爲スベシ

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ従事スル時ハ他船ニ用ユル燈火ヲ掲ケテ唯橋頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歇ヲ以テ閃先一個又ハ數個ヲ發スベシ水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ従事セサル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ